


<p>20分</p> <p>2限</p> <p>10分</p>	<p>③Bの気持ちを考え、ワークシートに書き込み、グループで話し合う。</p> <p>④Aが知らないふりをした理由をワークシートに書き込み、班で話し合う。</p> <p>⑤④で出た理由について、Bはどうすればよいかを班で話し合い、全体で意見発表する。</p> <p>展開2（状況2を板書）</p> <p>⑥新たに2人を選び、AとBを決め状況2のロールプレイをする。</p>	<p>⑤④で出た理由により問いかけを工夫する。 例) 急いでいるように見えた。「Bはどうしたらよかったと思う?」 例) 無視されたように見えた。「Bはどうしようか。みんなならどうする? おこるかな?」</p> <p>⑥「AはBに声かけをされたとき、ちらっとBを見るかも」というような助言をする。</p>
<p>(状況2) Aが足早に歩いているのに気づいてBが声をかけた。しかし、Aは急いで家に帰ろうと思っていたので、何も言わなかった</p>		
<p>20分</p> <p>10分</p> <p>10分</p>	<p>⑦Aはどうすればよかったかをワークシートに書き込む。</p> <p>⑧「言葉を使わないでAはどう答えればよいのだろう。」について意見を出す。</p> <p>⑨「言葉を使ってAはどう言えばよいのだろう。」について意見を出す。</p> <p>⑩状況1と2では何が変わったのかワークシートに書き込み、その後班で話し合う。</p> <p>⑪他の感想を聞き、自分の体験をふりかえる。</p>	<p>⑧予想「表情で伝える。身振りで伝える。」</p> <p>⑨予想「ごめん。急いでいるから…。」「またあとで電話するから。」</p> <p>⑩言葉を使う、使わないで、相手に与える誤解にかなりの違いがあることに気づかせる。</p> <p>⑪相手を納得させるには、表情や行動と言葉で表現することがわかりやすいことを理解させ、いずれも大切なことであることに気づかせる。</p>

3) 子どもの反応

○子どもの感想より

- ・無視されたら、僕のことくらいなんかなあと思ったり、どないしたらええやろと考えてしまう。無視されると困るけど、何か表情で伝えてくれると困らない。
- ・無視されたと思ったら、「どうしたん?」とか「ごめん。自分なんかした?」と聞いたり、もう一度声をかけて確かめたりする。
- ・声かけできなければ、相手に表現や身振りで伝えればよい。それだけでも納得する。



4) 実践者の声

- 子どもにはかなり難しいと思ったが、実際には意外と設定した状況を理解しやすいようである。
- コミュニケーションには表情や行動も必要なことを理解するための展開1・2なのだろうが、⑩はややくどい。むしろ、「言葉を使う・使わない」の違いの方が子どもにはわかりやすかった。いずれにせよ相手にメッセージを伝える大切さを理解させるには役立っていると感じた。

「私」からはじめるメッセージで自分を伝える

- 学校名 阪南市立波太小学校
- 実施学年 6年1組（35名）
- 実施日時 平成19年12月 【道徳】
- 実施場所 教室

1) 全体の取組みの概要

6年生児童は、21人と人数も少なく、落ち着いた態度で学ぶ姿勢が定着している。普段は、男女も仲よく過ごしているが、友だちに対する態度や言葉づかいなどが原因でトラブルが起こることもあった。

全学年で「いじめ対応プログラム」を実施し、多くの内容については、複数学年で実施した。「アイメッセージで伝えよう」に関しては、集団の状態とプログラムの内容から最上級生である6年生での実施が適切であると考え、6年生のみで行った。

道徳の授業で用いたこの学習では、生徒指導担当者が授業を行い、担任が子どもたちの様子を見守るような体制で実施した。

2) 展開例


- プログラム名 「I（アイ）メッセージで伝える」
- ねらい 円滑な人間関係を保つためにアイメッセージで自分の気持ちを伝える。

時間	展開	指導上の留意点・工夫
10分 20分	①学習のねらいを聞く。 ②ロールプレイで教員が責める側、子ども（代表）が責められる側になり、例を前で示す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 図書館で借りた本を友達に貸したが、なかなか返してくれず、返却日に遅れた。 </div> ・教員の言い方A（YOUメッセージ） →相手を主語にして、きつい口調で責める。 ・教員の言い方B（Iメッセージ） →自分を主語にして自分の意見を言う。 ③AとBで言われた側の気持ちを比較する。	（●ねらい参照） ②特に（YOUメッセージ）の時は、感情を表し、丁寧に理解させる。 ・他の子どもには、代表でロールプレイをしている子どもと同じ立場なら、自分はどう言うかを考えながら見るように指示する。 ③一方的に発言されると、相手に対し批判的な意見や感情が生じることを理解させる。

5分	④アイメッセージで伝えてみよう	
	<p>*バスケットボールの試合で負けてしまい、ミスの多かったチームメイトを責める。 *遊ぶ約束をしていたAさんが当日の朝、断りの電話をかけてきた。しかし後からAさんがBさんとその日遊んでいたことがわかり、Aさんを責める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記入プリントの配付 ・自分が考えたアイメッセージをプリントに記入する。 ・意見交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの意見を板書し、適切なアイメッセージはどれかを考えさせる。 ・できるだけたくさんの子どもの発表させる。 ・机間巡視し、友だちの感想を紹介する。
	⑤学習のまとめ	
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を終えての感想や意見を書く。 	

※ 子どもが考えるための例示やキーワードは、あらかじめ用意しておき、黒板に貼っていくようにした。

3) 子どもの反応

<ul style="list-style-type: none"> ・ アイメッセージのほうが、相手の気持ちが分かる。 ・ 相手に対しての言い方で人間関係が崩れてしまうことがわかった。これからはやさしく話すようにする。 ・ 自分のことから始めたら、言いたいことが伝わるということがわかった。 ・ せめられる側の気持ちがよくわかった。 ・ 自分のことからいったことがあまりなかったからよくわかった。口げんかしている時は、「お前」とよく言っている。今日の勉強はよくわかった。 	
---	--

4) 実践者の声

○子どもたちは、アイメッセージがトラブルなどの際に、自分の意思を伝える有効な手段となることに気づいた様子だった。特に、子どもたちが実際のロールプレイの中で2通りの聞き役立場を経験し、比較することができたことが効果的であった。

○また、後半のアイメッセージづくりでは、日頃から慣れていないために、「わたしは～」で始まる言い方に苦労する子どもも多かった。中には、はじめは上手くできていても、いつの間にか相手のことを主語にしてしまう子どもも見られた。しかし、友だちのアイメッセージを聞くと確かに受ける印象がちがうことに気づいていた。今後、学習したことを実際に活用できるまでは、かなりの時間がかかると思われるが、繰り返しの学習と日常の場面での指導によって子どもたちの中に定着させたいと考えている。

○ロールプレイでは、責め役を教員、聞き役を数人の子どもたちで実施した。他の子どもにも聞き役立場で、責め役が「相手のことをいう場合」と「自分のことをいう場合」の2つを比較させた。このことで、責める側が感情的に相手を批判するのと自分の意見や気持ちをアイメッセージとして伝えるのでは、受け取る側に大きな違いがあることを気づかせたかった。



教員のロールプレイをもとに考える

- 学校名 阪南市立尾崎中学校
- 実施学年 2年3組（31名）
- 実施日時 平成19年12月 【総合的な学習の時間】
- 実施場所 教室

1) 全体の取組みの概要

日常の生徒たちの会話はたいへん荒っぽく、誤解によりトラブルを引き起こすことも多い。そのため、少しでもお互いの気持ちがすれ違わないようにすることが大切である。コミュニケーションには、言葉だけでなく表情や行動もその要素であることを学習し、相手に気持ちを伝える様々なコミュニケーション能力を高めたい。


2) 展開例

- プログラム名 「通りすぎる人」
- ねらい 集団生活を送る上で必要なマナー及び対処の仕方を身につけるため、「足をひっかけられた時の対応」を教員のロールプレイを交えながら考え、話し合う。

時間	展開	指導上の留意点・工夫
5分	①アイスブレイキング『ぱんぱん頭*』 ※肩・頭・耳などを教員の指示で押さえ、スピードアップしていく単純なゲーム	①ウォーミングアップと本時のねらいを理解させる。→「あらかじめ学校で起こるかも知れない事象を予想することで、その対処法を獲得しておけば人間関係が円滑になり、快適な学校生活を送ることができる。」
15分	②「こんな時どうする？」 ・教員によるロールプレイを見る。 「通り過ぎるの人に足をひっかけられた」	
	休み時間に、教室を移動していたB、椅子に座って退屈そうなA。Aの横を通り過ぎようとしたBの足をAがひっかけた…。	
	③教員が6つの行動パターンを演技し、生徒にそれぞれのその後の展開を予想させ、話し合うことで、ひとそれぞれの意見の違いを認識し、対処法を考える。	③それぞれのシーンが終わるごとに、黒板にそのシーンの説明文を貼り、状況を認識させる。 (演技者は交替した方が両者の違いが際立つ) ・互いが素直に意見を出し合うことで、自分と他人との感じ方(感性)の違いを認識させる。

5分	④まとめ	<p>【6つの行動パターン】</p> <p>(ア) Aに脚をひっかけられながらもBは「知らん顔」をして立ち去る。 (イ) Bは脚をひっかけたAをにらみつけて立ち去る (ウ) Bは脚を引っかけたAをにらみつけ、舌打ちをして去る (エ) ひっかけたAをBは振り返り「もう」と言って去る (オ) ひっかけたAをBは振り返り文句を言って去る (カ) ひっかけたAをBは振り返り、文句を言いながらAの脚を蹴飛ばす。</p> <p>・生徒たちの授業の雰囲気の評価しながら、心穏やかにシートに記入する時間を設定する。</p> <p>④「ふりかえりシート」を活用する。</p>
----	------	---

3) 子どもの反応

<p>○【6つの行動パターン】に対する子どもの意見</p> <p>ア…一番効果的 / やりがいがない / 何か文句を言うべき / 平和に終わる / モヤモヤが残る (やられた方)</p> <p>イ…相手が文句を言ってくるかも (引っかけた方) / 微妙にすっきりせえへん</p> <p>ウ…ちょっと怖い / しける / むかつく (どっちも) / すっきりせえへん</p> <p>エ…☆優しさを含んだ方 : みんなに笑われる / 平和に終わる ☆怒りを強調した方 : ケンカになる / すぐ終わる / 相手が謝る</p> <p>オ…すっきりする (やられた方) / 逆ギレしてきそう / 面白がってまたやってきそう</p> <p>カ…仲悪くなる / なぐりあい、けりあい / 木の棒持ってくる / 嫌われる / みんなが止める / 両方が悪くなる / 周りのはやし立てる</p>	
--	---

4) 実践者の声

- 教員がロールプレイをすることで、子どもの表情が和らぎ、楽しく集中して授業を行うことができた。それぞれのシーンに対して互いの意見を交換し合うことで、個人による感じ方の違いも認識できたようだ。シーンごとに内容を掲示し、その下に板書したことで、子どもから出た意見を比較しやすかった。
- 授業者の予想以上に、生徒の話し合いは盛り上がり、生徒たちが授業を楽しめ、真剣に取り組めた。





もめ事だって解決できるさ

- 学校名 松原市立松原第七中学校
- 実施学年 第2学年（99名）
- 実施日時 平成20年6月 【総合的な学習の時間（人間関係学科）】
- 実施場所 各教室

1) 全体の取組みの概要

本校は、平成15年度より、子どもたちの「自己認識」「コミュニケーション力」「問題解決力」「ストレスへの対処」等のスキルの育成を図る「人間関係学科（略称HRS）」の開発に取り組んでいる。この取組みでは、「協調的に解決する方法を学ぶ」のプログラムを下敷きに、子どもたちが、日常的に起きる「もめ事」に対して、どのように考え対処していくかを考えるきっかけとなる授業を模索した。

2) 展開例

- プログラム名 「よりよい方法」
- ねらい 学級の中では、「ちょっとしたこと」で、日常的に「もめ事」がおこる。学級の中で起こりがちな事例をとらえ、協同的な作業の中で、アサーティブネスな考え方・言い方を実践しながら集団的な問題解決の方法に気づくことをねらいとした。

時間	展開	指導上の留意点・工夫
5分	①前時のふりかえり（アサーション）と本時の説明。	②テンポ良く、声を合わせて、手拍子を入れるようにする。
5分	②アイス・ブレイキング「一致団結・ソーレ！」を実施する。	
5分	③もめ事の提示 ・班の6人で遊園地遊びに行く計画を立てるが、それぞれが自分の都合を言い出し、せっかくの楽しい計画のはずが「もめ事」になってしまった。	③端的に、簡潔に問題を提示する。
10分	④問題解決指令1 ・ワークシートに従って、どうしたら一緒に行くことができるか考える。	④誰のどんな都合を変更することで問題を解決できるかを整理する。

10分	⑤問題解決指令2 ・問題解決の方法が見つかったら、「だれが」「だれに」「どんな言葉」でわかってもらうのかを話し合う。	⑤各グループで、問題解決の方法が決まったら、話し合いをやめ、それぞれのグループの意見を一旦集約し、「問題解決指令2」を出す。 ・その子どもにわかってもらう言葉を考えるとき、アサーションに留意して考える。
10分	⑥話し合いの結果をグループごとに発表する。	⑥もめ事の解決にはいろいろな方法があってよいことを伝える。
10分	⑦ふりかえりシートに、感じたり考えたことを記入する。 ⑧発言を求め、全体でシェアリングする。 ⑨まとめ	⑧多様な意見を取り上げ、工夫したり悩んだり、がんばったことを評価する。 ⑨今後もアサーションを学んでいくことを予告する。

3) 子どもの反応

○子どもの感想より

- ・今日のHRSでやったことは、本当にありそうなことで、もしかしたら、もうすでに経験していることかもしれない。「あそこでああしといたら良かったなあ」とか、みんな思っていたんとちがうかなあ・・・ だから、今日の発表を真剣に考えられたんとちがうかなあ。
- ・自分では想像もつかなかった解決方法を他のグループが発表していて、そんな方法もあるのかとあらためて気がついたことがいっぱいあった。
- ・相手のことを考えながら、みんなの予定を決めていくというのは難しいんだなあ実感した。でも、楽しく勉強できた。これは、日々の生活に活かしていけると思った。



4) 実践者の声

- 1年次より、「相手が傷つくことなく」「自分の意見も聞いてもらう」ための「アサーション」に取り組んできた。グループ内の話し合いで、随所に「アサーション」を意識した発言が見られたことが、HRSの成果だと感じている。
- 教員の予想以上の「働きかけの言葉」が出てきたことに驚いた。仲直りをしてほしい仲間に対して、「私も一緒に行くから…」や、宿題をする時間を変更してほしい仲間に対して「一緒に勉強しよう」というような、仲間を意識した発言がみられたことに成長を感じた。

相手を感じ、「私メッセージ」を言える人間に

- 学校名 羽曳野市立誉田中学校
- 実施学年 第2学年（223名）
- 実施日時 平成19年10月 【総合的な学習の時間】
- 実施場所 各教室

1) 全体の取組みの概要

「平和と対立を考える」（日々の生活の中にある平和と対立の関係を見つめる）をテーマにして3時間の計画で行った。

1時間目	<p>平和と対立を考える</p> <p>①「戦争の加害・被害についての学習」とどまらず、日々の生活の中にある「平和と対立」の関係をみずえる視点を育てる。</p> <p>②「平和」な学校とはどんな学校なのかを考える。</p> <p>③自分たちが「平和」な関係を広げていく主役であるという前向きな気持ち・態度を育てる。</p>
2時間目	<p>平和な学校ってどんな学校？</p> <p>①今、自分の学校生活が＜平和＞なのかどうかを考える。</p> <p>②なぜ＜平和＞だと思うのか、なぜ＜平和でない＞と思うのかを整理する中で、毎日の生活の中に存在する対立を意識化する。</p> <p>③よりよい人間関係（対立を乗り越える人間関係）を結ぶために、何が大切なのかを考える。</p>
3時間目 (本時)	<p>あなたなら、どうする？</p> <p>①よりよい人間関係（対立のない人間関係）を結ぶためには、友だちとどのようなコミュニケーションをとればいいのかを考えるため、「I（アイ）メッセージで伝える」プログラムを実施する。</p> <p>②コミュニケーション手段のひとつである言葉には、様々な表現があることに気づき、非攻撃的な自己表現ができるようにする。</p>

2) 展開例

- プログラム名 「I（アイ）メッセージで伝える」
- ねらい
 - ・よりよい人間関係（対立を乗り越える人間関係）を結ぶためには、友だちとどのようなコミュニケーションをとればいいのかを考える。
 - ・コミュニケーション手段の一つである言葉について、発言あるいは会話する場合には、様々な表現があることに気づき、非攻撃的な自己表現ができるようにする。

時間	展開	指導上の留意点・工夫
30分	①アクティビティ1 ・担任が提示する3つの事例について、ワークシートに、その時の言い方を書き、発表する。(1事例10分)	①なぜそのような言い方をするかも併せて発表させる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事例 A：班の人が親友から誕生日プレゼントにもらったシャーペンをうっかり壊してしまいました。あなたは思わずかっとなってしまいました。さて、どうする？</p> <p>事例 B：プリントをもらおうと先生の前に並んでいた時、A君がだまって割り込んできました。あなたは思わずかっとなってしまいました。さて、どうする？</p> <p>事例 C：クラブの顧問の先生からの連絡事項をきちんと聞いていなかったB君が、あなたに間違えて伝えました。あなたは思わずかっとなってしまいました。さて、どうする？</p> </div>	
5分	②ふりかえり ・発表のあった意見をふりかえる。	・黒板に、発表内容が攻撃的な言い方と相手を尊重しながらも自分の言いたいことを伝える言い方を分けて示す。 ②3つの事例が終わったら、黒板に分けて書いた2つのメッセージの意味を考えさせる。
10分	③アクティビティ2 ・担任が読む2つの事例を聞き、自分が出たようなメッセージを送ってほしいのかを考える。	・「あなた」メッセージ：「あなた」への感情的で攻撃的な主張 ・「わたし」メッセージ：「わたし」を主体として、相手を尊重しながら自信を持って自分の言いたいことをきちんと伝える主体的な主張。相手を傷つけない言い方。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事例 D：体育祭で自分が出場したリレーで最下位になってしまいました。応援席に戻ってきた時どんなメッセージを送ってほしいですか。</p> <p>事例 E：みぞに落ちて足を骨折して学校に行ったとき、どんなメッセージを送ってほしいですか。</p> </div>	
5分	④ふりかえり ・本時の2つの活動をふりかえる。	④集団生活の中で、よりよい関係をつくっていくためには、「あなた」メッセージではなく、「わたし」メッセージを送ることが大切であり、各自がその努力をしてこそよりよい集団、平和な集団、平和な学校がつくられることを意識させる。

3) 子どもの反応

【事例A】の「私メッセージ」例

- ・すごく悪かったって感じで謝られたら「別にいいよ」ていう。仕方ないから。
- ・「別にいいよ」と言って、修繕できるのであれば自分で直してみる。もし、修繕できなかつたらその親友に謝りに行く。

【事例B】の「私メッセージ」例

- ・「みんな並んでんねんけど。ちゃんと並んだら！」
- ・別にいいか…って思うけど、目で訴えるかも……。

【事例C】の「私メッセージ」例

- ・「ちゃんと話し聞いたときや。自分が困るでー！」
- ・聞いてへんかった自分にも非があるから「いいよー」て言う。

4) 実践者の声

○携帯電話を介してつながりを求め、友だち関係を築いたり、不適切な言葉をギャグに使うような子どもたちに対して、悲しみや怒りなどの自分の感情を言葉や表情にして、他人に伝えるトレーニング・人の話や気持ちを聞いたり情報を直に吸収したり質問するトレーニング・自分の気持ちや意見をはっきりと相手への配慮を忘れず表現するトレーニング（わたしメッセージ）を継続的に実施してきた。学習した内容や様子は学級通信で保護者に伝え、保護者とともに子どもの成長を確認しつつ、子どもの課題を共有したことで、学校への理解、協力を得ることもできたと思う。

(6) 仲間と支え合う力をはぐくむために

「ピア」には仲間という意味があり、仲間どうして支え合うことを「ピアサポート」と言います。子どもたちは仲間関係の中で、時にはぶつかり合い、時には支え合いながら成長していきます。

ここで実践されたプログラムは、子どもどうして支え合うために互いに意見を尊重しながら協力し合うことをめざしています。相手の意見をしっかり聴く力や一つの目的を達成するために協力する力をはぐくみます。

また、互いに協力し合い、いじめに発展しそうなトラブルを解決していくことで、子どもたちの自己肯定感を高めます。

■ 実践事例 ■

- | | | |
|-------|---------------------------------|-------------|
| 事例 25 | 心と心をむすぼう 一心のノートとつないでー (小学校・低学年) | 枚方市立五常小学校 |
| 事例 26 | 自分のことを気軽に話してみよう (中学校・1年生) | 大阪狭山市立第三中学校 |
| 事例 27 | 私の良い面を伝えてくれる友だちがいる! (中学校・2年生) | 東大阪市立盾津東中学校 |
| 事例 28 | いじめの定義を知っていますか (中学校・3年生) | 富田林市立第二中学校 |



心と心をむすぼうー心のノートとつないでー

- 学校名 枚方市立五常小学校
- 実施学年 1年3組（25名）
- 実施日時 平成19年11月 2時間 【道徳】
- 実施場所 教室及び体育館

1) 全体の取組みの概要

全校児童にいじめ防止通信の発行を行っている。その通信を通して2学期「いじめ対応プログラムⅡ」より「あいこジャンケン」「いろんな見方」「わりばしを支えよう」「宝取りゲーム」「リラクゼーション」を紹介した。

また、第1学年では、道徳の時間に『こころのノート』との併用も行った。道徳資料のクラスづくりゲームやストレス体験ワーク等も紹介しながら、各学級に応じた工夫を取り入れて、全学級でプログラムを実施した。

第1回（10月）	「いろんな見方」
	①めあての提示「いろんな見方」 ②通信で紹介した例を見てどのように見えるかを書かせ、発表させる。 ③全体を2班に分け「C」「W」の文字を大きくして話し合い、発表させる。 ④まとめ
第2回（11月）	「わりばしを支えよう」「宝取りゲーム」（「展開例」参照）

2) 展開例

- プログラム名 「わりばしを支えよう」「宝取りゲーム」
- ねらい クラスの楽しい時間を共有しながら、相手の気持ちを理解し、心を合わせることの大切さ、協力・助け合いの心を育てる。


時間	展開	指導上の留意点・工夫
第2回 45分	「わりばしを支えよう」 ①めあての提示「力をあわせる」 ②「たてるかな」（『こころのノート 小学校1・2年』p.30）を活用し、背中合わせで立つ、座る。 ③割り箸を配り、2人で支え立つ、座る。 ④回転する。その後話し合い、まとめ。	①「こころとこころをむすぼう」を示し、体が触れ合うことで心の結びつきを体験させる。 ②友だちと力をあわせた経験を思い出させる。

<p>第3回 45分</p>	<p>「宝取りゲーム」</p> <p>①めあての提示「協力・助け合い」 ②助け合っとうれしかったことを思い出させる。 ③協力・助け合いの体験として宝取りゲームの実践。 ④まとめ、感想を出させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※ いじめをなくすメッセージ (パソコンで音声を変えた) 成功おめでとう。みんなのチームワークによって、宝を見つけることができました。本当によく最後まで、協力してやりとげることができましたね。 このクラスには、みんなで協力しあえる大きな大きなチームワークがあります。そんなクラスには、いじめはありません。これからも、このチームワークを大切にみんなで協力しあえる楽しいクラスにしていってくださいね。今日は、本当に成功おめでとう！</p> </div>	<p>①遊び感覚で終わらないように、めあてを教室で十分理解させた後、体育館に移動。 ③アイマスクは使用せず、途中で目をあけたらチャレンジャーを交替することをルールとした。自分で目を閉じ、仲間の支えを信じて目をできるだけ開けずにやってみようという信頼関係を期待した。 みんなで協力して宝を探すためにもルールを守ることの大切さを説明する。 ④最後に宝箱の中のレコーダーに入っている「クラスへのいじめをなくすメッセージ」※に集中させ、静かに聞かせる。</p>
--------------------	--	--

3) 子どもの反応

○子どもの感想より

- ・ 割り箸を支えて動くのが難しかった。
- ・ 見つけて最後に聞いたメッセージの声がおもしろかった。
- ・ ロボットの声がおもしろかった。でも、ロボットはいいことを言ってくれた。
- ・ 宝探しをしておもしろいと思った。こういうのは初めてだった。また、宝探しをしたい。
- ・ 体育館に入ったら緊張してやるのが、ちょっとわからなかったけど、できてよかった。
- ・ ルールを守れたから面白かった。また今度もやりたい。
- ・ はじめに、まだ宝を見せてもらっていないときに、宝はどんなだろうと思った。見せてもらったとき、メッセージはどんなだろうと思った。
- ・ 宝を目をつぶって探している人に教えて、だんだん宝に近づいていくのを見るのが楽しかった。



4) 実践者の声

○どの子どもも目を輝かせながら取組んでいた。楽しみながら、いろいろな見方、考え方があることや、協力しあう大切さが体感できていたように思う。インパクトのある取組みは、子どもの心に残る。今後も実践していきたい。

自分のことを気軽に話してみよう

- 学校名 大阪狭山市立第三中学校
- 実施学年 第1学年（163名）
- 実施日時 平成19年11月 【特別活動】
- 実施場所 教室

1) 全体の取組みの概要

中学校に入学してから半年が過ぎ、学校生活にも慣れてきた1年生であるが、特定のクラスメイトとは話をしているが、同じ班になったことのない同級生（特に異性）とは1度も会話をしたことがない状況がある。そこでお互いをより知るために、このプログラムを実施した。

スクールメイトも協力し、指導案を作成し、学年会議でプランを検討し、全クラスが同じ内容で実施した。スクールメイトはその中の1つのクラスに入り、学級担任とT・Tでプログラムを実施した。

2) 展開例

- プログラム名 「あいこじゃんけん」「みんなとコミュニケーション」
- ねらい プログラムを通じて、互いにコミュニケーションをとり、楽しい時間を共有すること、互いに理解を深めることでいじめの未然防止を図る。

時間	展開	指導上の留意点・工夫
5分	①座席は10分休憩時に名前の順で8人×4列になっておく。机は教室の後方に寄せる。	①黒板に名前カードを貼っておく。
15分	②ルール説明 ③じゃんけん（普通）5回 担任対全員でじゃんけんをする ④後出しじゃんけん（あいこ） ⑤後出しじゃんけん（負け） ⑥感想を聞く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>◆ルール◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加（積極的な参加を） ・尊重（みんなの意見・気持ちを大切に） </div> <p>③何回勝てたかを聞く。 ④簡単なようならテンポを速くする。 ⑤④と同じように、テンポを上げていく。</p>
20分	⑦みんなとコミュニケーション ・ルール説明	⑦1人が偏って話すことのないよう注意する。 話し足りない雰囲気の場合は、少しインターバルを取ってもよい。

<p>10分</p>	<p style="text-align: center;">◆ルール◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話す時：深く考えずに気軽に話す。 ・聴く時：相手が話しやすいように。 <p>・2人1組で向かい合ってイスに座る。</p> <p>・好意的な聴き方の見本を見せる。</p> <p>・紙に書いたテーマを見せ、2人で1分間話し合う。話し終わったら、2・4列目の生徒だけ1つ席をずれる。(写真参照)</p> <p>⑧ワークショップのふりかえりをする。「守秘」を説明する。</p> <p>⑨アンケートに感想を記入する。</p>	<p>・テーマは、話しやすいものから、次第に考えさせるようなテーマを選んで工夫する。</p> <p style="text-align: center;">◆テーマ◆ (例)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①好きな食べ物 ②好きな教科とその理由 ③興味のあること(～時が楽しい) ④頑張っていること・自信のあること 知ってほしいこと ⑤ペアの良いところ・頑張っているところ ⑥自分の班の良いところ ⑦クラスの良いところ
------------	--	--

3) 子どもの反応

○子どもへのアンケートの結果より

①できた ②まあまあできた ③どちらとも言えない ④あまりできなかった ⑤できなかった

- ・楽しめましたか? ①58% ②25% ③11% ④4% ⑤2%
- ・積極的に参加できましたか? ①50% ②33% ③12% ④3% ⑤2%
- ・クラスメイトと協力できましたか? ①45% ②33% ③17% ④3% ⑤2%

○子どもの感想より

- ・男子と1対1で話して、すごくおもしろかった。
- ・イメージと違う時がいっぱいあって楽しかった。
- ・しゃべらない人と話して友だちの輪が広がった。
- ・かたくなるような話題でも、これだけ盛り上がるなんて、意外でした。
- ・今度は全員まわるようにやってみたい。



4) 実践者の声

○入学して半年が経ち、「いまさら」と時期的にはずれていると思って取り組んだが、子どもが楽しんでいてよかった。学年での打ち合わせが大変であったがスクールメイトが準備をしっかりとやってくれていたため、順調に実施できた。

○学年開きではかなり使えそうだ。朝学活・終学活など少しの時間でもやれると思う。



私の良い面を伝えてくれる友だちがいる！

- 学校名 東大阪市立盾津東中学校
- 実施学年 第2学年（200名）
- 実施日時 平成19年11月 【特別活動】
- 実施場所 各教室

1) 全体の取組みの概要

1年の半ばを過ぎ、学級としてのまとまりもできた反面、いくつかのグループができ、力関係に左右される面や仲違いするような状況も見られ、学級担任としてクラスが一つになるきっかけを模索していた。

これまで、学年当初の時期などに自己紹介をさせることはよくあったが、学年の途中に「他己紹介」を実施したことはなかった。しかし、この取組みは、手軽に実施ができ、しかも、他人の良い面を他の仲間に伝えるという、互いに好印象を与えあう内容であるため、教室が温かい雰囲気になることが期待できる良いプログラムだと考え、取り組んでみることにした。

2) 展開例

- プログラム名 「ピア・カウンセリング」「他己紹介」
- ねらい 学級の仲間のことを知るため、互いの良さを他己紹介の手段を用いて、ペアになって相手の長所や頑張っていることを中心に、できるだけ多くのことを学級の仲間に制限時間内でアピールする。その際、聴いた話をもとに他人に紹介するため、自分のことをできるだけ上手に説明すること、また、聴く側は聴いた話を間違えず、要領よく他の人に伝えることが必要になるなど、聴く力や説明する力、伝える力を養うことにもつながると考えた。

時間	展開	指導上の留意点・工夫
5分	①担任から本時の説明を行う。	①仲間づくりの観点で行うものであることを押さえる。「聴く」と「聞く」の違いを説明する。
5分	②2人1組になり、話しやすい位置を確認して座り、1分間ずつピア・カウンセリングを行う。 「今、一番楽しいこと」「今、一番頑張っていること」等。	②聴き役は相手の良い面を認め受容する態度で臨み、話し役は誇張せず具体的なエピソードを交えて今の自分を伝える。ペアは、仲の良い者に限定せずランダムで組み合わせる。良い姿勢、良い表情で行うようにさせる。

10分	③ピア・カウンセリング終了後、2組を合わせて4人組になり、聴き役が聴いた相手のことを、2分間で他の2人に紹介する。	③話し役が伝えなかった内容に即して、要領よくまとめる。
15分	④4人がそれぞれ他己紹介する。	④他の3人がかけがえのない仲間であることを意識しつつ、良い面を強調するようにする。
10分	⑤ふりかえり ・聴き役の人は友だちの話をうまく紹介できたか、話した人は自分の話をうまく伝えてもらえたか、他の人は聴いてどうだったかをふりかえる。	⑤自分が言いたいことを言ってくれていたか、間違い等がなかったか互いにふりかえらせる。
5分	⑥感想を書く。 ⑦まとめ	⑥特にうれしかったことは必ず書かせる。 ⑦良かった点など、いくつか紹介して学級全体を評価する。

3) 子どもの反応

○子どもの感想より

- ・他人のことを他人にわかるように話すことは結構難しかった。でも、他の人の良い面を話してあげるとき、その人はとても嬉しそうだった。
- ・みんなでいっぱい笑い合っただけが楽しかった。
- ・相手の表情や態度で、説明する時の気持ちに結構影響があった。やっぱり、にこにこ笑ってこれたら話しやすいし、ブスッとされていたら話しにくかった。
- ・これまでのつらかったことを話した子がいたけど、全然知らなくてびっくりした。勇気を出してよく言ったと思う。先生が、初めに、「今日はみんなが仲良くなるために行うんだから、どんな発言があっても怒ったり、腹を立てたりせず、しっかり話を聞くこと、そのかわり話す人も真剣に話すように」と、みんなに言っていたからかもしれない。



4) 実践者の声

○どんな展開になるか心配なところもあったが、互いに笑顔で他己紹介をしており、できるだけ、他人の良い面を伝えるように努力している姿がほほえましかった。互いを大事な存在として認識できる大きなきっかけになったのは間違いなく、このような取り組みを日々続けることが、いじめのない学校づくりにつながっていくのだと思えた。

○事前に学年の教員で一度実施してみて、互いに内容をわかりあえていたため、スムーズに実施できた点や、どの学級でも同じような雰囲気を取り組めたことも良いことであった。学級・仲間づくりの観点からも楽しく取り組めるプログラムである。





いじめの定義を知っていますか？

- 学校名 富田林市立第二中学校
- 実施学年 3年A組（36名）
- 実施日時 平成19年11月 【特別活動・学級活動】
- 実施場所 教室

1) 全体の取組みの概要

本校では、平成18年度より全校集会や学年集会において、生徒指導主事及び指導総合コーディネーターが中心となり、いじめ事象に対する取組みを行ってきた。

今年度は、こども支援コーディネーターが、スクールメイトと協働して、生徒を対象に「いじめ対応プログラムⅡ」のプログラムを実践している。本授業は、中学校3年生を対象にし、テーマを「友だち・仲間の新しい発見」と設定し実施した。

2) 展開例

- プログラム名 「ステレオあてっこ」「ピア・カウンセリング」「他己紹介」
- ねらい
 - ・「いじめ集団の四層構造」、「いじめの定義」、「エンパワメント」について理解させ、「いじめはダメ！許さない！NO！」が大切であるということを認識させる。
 - ・個人の今までに経験した『感動体験』のうち一つを話し、それをどう友だち・仲間に伝え、またその思いをどう受けとめることが大切かを考えさせる。そして、個人の『感動体験』を学級全体で共有することで、友だち・仲間の良さについて新しい発見をし、相互の理解を深め、学級集団づくりへとつなげることをねらいとした。

時間	展開	指導上の留意点・工夫
10分	①『連想ゲーム』（テーマ「いじめ」） ・ルール説明 ・列ごとにチームになり、後ろの人に伝える。各列最後の人、全体へ発表する。	①ルールを理解させ、人の発言をしっかりと聞くことを意識させて始める。 ・連想の移り変わりについて、指導者が簡単にコメントを入れながら、解説する。
10分	②「いじめ」についての再認識 発問1「いじめは、なぜダメなのか？」	②挙手があれば発表させ、なければ指名して発表させる。

25分	<p>③【いじめの定義】、【いじめの4重構造】、【いじめの種類】について説明したプリントを配付する。</p> <p>④発問2「いじめをなくしていくために、私たちはどんなことをしていかなければならないのか？」</p> <p>⑤『いじめ対応プログラムⅡ』と今回の研究授業の説明 ・【エンパワメント】の説明</p> <p>⑥『アイス・ブレイキング』 ・「ステレオあてっこ」の説明と進行</p> <p>⑦『ピア・カウンセリング』（聴く、話す） ・テーマ「感動体験」</p> <p>⑧『他己紹介』（人間関係を広げる） ・2～3組のペア及び班に発表させ、学級全体で思いを共有する。</p>	<p>③内容を理解させるとともに、今まで学んできたことを再認識させる。</p> <p>④今まで学んできたことを思い出させる。 ・「ダメ！許さない！NO！」の大切さを強調する。</p> <p>⑤「元々持っている力（能力）をうまく出せない人やスキルがなくて出せない人とコミュニケーションをとり、一緒に関わりながらその力（能力）をうまく引き出すこと」の大切さを理解させる。</p> <p>⑥心と体をほぐすウォーミングアップのようなものであることを知らせる。</p> <p>⑦特に相手が伝えたいことをきちんと受けとめるように意識させる。</p> <p>⑧ピア・カウンセリングで作った組を2つ合わせて4人グループを作らせる。</p>
5分	<p>⑨ふりかえりとまとめ 個人→グループ→学級全体でふりかえる。</p>	<p>⑨相手が伝えたいことをうまく紹介できたか、自分の思いをペアに紹介してもらいどう感じたか発表させる。</p>

3) 子どもの反応

○子どもの感想より

- ・一人ひとり違う感動体験があることが印象に残った。身近な人の話を聞くのは少し恥ずかしかったけど、いろいろなことを考えさせられた。
- ・あまり話さない人と話して、この人はこういうことを考えているのかと初めて知り、今までとは違うように見れるようになった。人の新たな一面を知ることができた。
- ・相手がうなずきながら話を聞いてくれることが意外にも嬉しいことなんだと思った。
- ・友だちへ耳を傾ける事も大事やし自分の思った事を素直に伝える事も大切だと思った。
- ・いじめってというのは、いじめる人はもちろん悪いけど、見てるだけの人も悪いと思った。自分は見てるだけの人にはなりたくないと思った。
- ・クラスみんなが話し合える今日のような授業を増やしたら、もっといいと思います。



4) 実践者の声

- 「いじめを許さない」指導と「集団・仲間づくりや個人の力を育てる（エンパワメント）」の取組みをどう並行して実践していくのかということで、かなり悩みながら授業計画を立てた。当日は、生徒にとってもかなり新鮮な内容だったようだ。（担任）
- スクールメイトとの複数指導が良かった。いじめを許さないという仲間づくりが、問題行動の発生の減少や不登校生徒数の減少につながると考える。（こども支援コーディネーター）
- 今日の授業で一番の関心事は、スクールメイトの授業での役割がどうなるのかということだった。教員だから言えることや、できること、スクールメイトだから見えることがあり、連携の大切さを実感した。「いじめ対応プログラムⅡ」は、学級の実態に応じて変化させることが必要で、そのためにも十分、意見・情報を交換していくことが大切だと感じた。（スクールメイト）

5) 参観者の声

- 「いじめ」をなくすために、何が必要か、我々教員は、日々何を伝えなければならないのかを改めて感じることができました。生じた「いじめ」に対する指導よりも、「いじめ」を発生させない日々の取組み、そして、そのプログラムの必要性を強く感じました。（中学校生徒指導主事）
- とても新鮮な授業に感じた。「いじめ対応プログラムⅡ」を、どう活用していくか。学校として、どうカリキュラムに取り入れていくかなど検討しつつ、実践を積み重ねていく必要がある。（中学校指導教諭）
- 小、中学校を通して、自尊感情を高めることや、自分や他の人の思いや考えを話したり、聞いたりする取組みを継続的にしていくことの大切さを感じた。（小学校教諭）
- 中学3年生で、しっかり自分の意見を出せていたのに驚いた。小学校から中学校まで、きちんと系統的に計画を立て、コミュニケーション能力をつけていく取組みが必要だと思った。そして、最終的に、相互理解ができるようになっていけば、いじめ事象もなくなってくるだろうと思う。（小学校教諭）
- 本日の授業を見せていただいたおかげで、いじめとコミュニケーション力の関係が自分の中で理解できました。何でも言い合えるクラスづくりを進めるために、このプログラムを利用すると良いと思います。そのためには、まず、各校でプログラムを用いたカリキュラムづくりが必要です。1時間の授業で終わりではなく、積み重ねが大切だと感じました。（小学校教諭）



第2章 様々な場面での取組み

いじめをなくすためには、学校における取組とともに、学校と家庭・地域が協働して、子どものエンパワメントにつなげることが大切です。地域の大人の子どもを見守るまなざしが、子どもにとってぬくもりのあるセーフティネットとなります。

また、部活動での人間関係がいじめに発展する場合があります。いじめは、教室以外の場面でも、児童生徒が一定の人間関係があるところで起こります。

第2章では、地域教育協議会、部活動、生徒会、適応指導教室など様々な場面での実践を紹介します。

- (1) 学級担任以外の実践
- (2) 教室以外での実践

発展 高等学校におけるピア・メディエーションの取組み

(1) こども支援コーディネーター、養護教諭などによる実践

いろいろな教職員が子どもたちに対して、いじめ対応プログラムを活用した実践をしています。ここでは、こども支援コーディネーター、養護教諭、生徒指導主事など学級担任以外の教職員が、取り組んだ実践を紹介します。

■ 実践事例 ■

- | | | |
|-------|---------------------------------|------------|
| 事例 29 | 心の保健指導、自尊感情とコミュニケーション (小学校・全学年) | 八尾市養護教諭部会 |
| 事例 30 | トラブル続発！子どもに感情のコントロールを (中学校・1年生) | 能勢町立西中学校 |
| 事例 31 | 黒板に人をからかう言葉が書いてあったが… (中学校・1年生) | 高石市立取石中学校 |
| 事例 32 | 選択授業の内容とリンクさせながら (中学校・2年生) | 東大阪市立小阪中学校 |
| 事例 33 | 子どもたちの表情が明るくなった！ (中学校・支援学級) | 太子町立中学校 |
| 事例 34 | 全学年で生徒指導主事がプログラムを実施！ (中学校・全学年) | 摂津市立第五中学校 |

心の保健指導、自尊心とコミュニケーション力

- 学校名 八尾市養護教諭部会
- 実施学年 全学年
- 実施年度 平成19年度 【身体測定時など】
- 実施場所 保健室など

1) 全体の取組みの概要

最近、保健室に来室する子どもたちの中に、心の不安定さを訴えたり、コミュニケーションがうまくとれずにトラブルになり心が傷ついている状況が見られ、「心の保健指導」の必要性を感じている。

アンケート調査（文部科学省「心の健康と生活習慣に関する指導」参考）を4・5年生対象に実施したところ、不安やイライラをかかえている子がとても多いことがわかった。そのため、不安やイライラに対して、うまく向き合い解決できる方法を学ぶことをねらいとして、「心の健康」に焦点をあてた保健指導を全7時間（①からだのところはつながっている ②自分の気持ちを言葉で伝える ③自分の気持ちを表情で表す ④自分のいいところ探し ⑤感情のコントロールの仕方 ⑥生活習慣と気持ちの関係 ⑦ストレスの逃し方）取り組んだ。

実施方法として、「雰囲気づくり」を大切にし、以下の3点（「かざり」「音楽」「かおり」）を組み合わせ、保健室がリラックスできる空間になるよう工夫し、ワークとからだほぐしを行った。

- ・ 部屋全体を飾りつけ視覚からリラックス → 季節やテーマに合わせたかざり
- ・ 静かな曲を流し、聴覚からリラックス → ヒーリングやα波を取り入れた音楽
- ・ かおり等で、嗅覚からリラックス → アロマオイルや香りのある植物

2) 展開例（全7時間のうちの1時間）

- プログラム名 「〇〇小 ニコニコ タイム（感情のコントロールの仕方）」
- ねらい 日常生活の中で、ささいなことからけんかやいじめが起こってしまう場面をよくみかける。その場面を紙芝居にし、対処方法を考えさせる。

時間	展開	指導上の留意点・工夫
20分	①日ごろの自分たちの行動をふりかえる。 紙芝居「〇〇小 最近よくあるはなし」 ・ 掃除中、ほうきが友人に当たった時 ・ 廊下でぶつかった時 など	①保健室から見える「最近のみんなの気になっている様子」を伝える。 例) ちょっとしたことですぐかっとなる態度、注意の仕方や言葉の使い方・気持ちの伝え方、相手の気持ちを考えない言動

	②どうすればよいかを考える。	②相手の気持ちを考える、気持ちを言葉で伝えること、深呼吸をして気持ちを落ち着かせることが大切であることを気づかせる。
10分	③静かな音楽の流れる中、ゆっくりとからだをほぐす。	③子どもがリラックスできる音楽を流す。 ・気持ちがいいと感じるぐらいの力でストレッチをするように伝える。
10分	④目を閉じて深呼吸をする。	④からだがほぐれると、こころ（気持ち）もやわらぐことを感じさせる。
10分	⑤（教室移動） フェイススケールと感想を記入する。	⑤話を聞いた後や、からだほぐしを体験した後の気持ちをフェイススケールに記入させる。

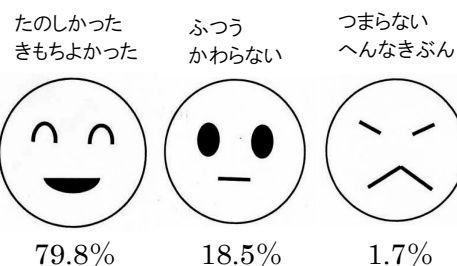
3) 子どもの反応（全7時間実施後）

○子どもの感想より

- ・ほっとした。深呼吸って気持ちが良い。
- ・朝、家で嫌なことがあったけどすっきりした。
- ・からだも気持ちもやわらかくなった。
- ・家でもからだほぐしをやってみようと思う
- ・私のストレスの解消法はぬいぐるみをだくことです。そうするとほっとします。



フェイススケールの結果



4) 実践者の声

○心の問題は生活習慣、いわば家庭とも密接に関係したものであり、この取組みがすぐに成果として表れるのは難しい。しかし、この指導に取り組んだことで、子どもたちが気持ちを表現することの大切さを知り、保健室が心の相談場所でもあることを意識づけられたと思う。結果、悩みごとを相談に来る子どもが増え、養護教諭はその子どもの危険信号を早期に発見しやすくなった。



○このプログラムはいじめの早期発見・解決にもつながる。また、感情のコントロールの仕方を教えることで、すぐに暴力を振るう子どもや我慢ができない子どもにも指導が入りやすくなった。このように全体指導を行ったことがきっかけとなり、より個別的な指導へ発展させることができた。

○何度も指導を繰り返すことの大切さを実感した。最初に比べると、静かに過ごす心地よさ、心を落ち着かせることがよいことであることを経験によって実感できているように思う。

トラブル続発！子どもに感情のコントロールを

- 学校名 能勢町立西中学校
- 実施学年 第1学年（132名）
- 実施日時 平成19年11月 【道徳】
- 実施場所 各教室

1) 全体の取組みの概要

入学時より、授業など学習活動にはしっかり取り組める子どもたちだが、仲間づくりに課題があり、2学期より人間関係のトラブルが多発していた。子どもどうしの会話に、とげとげしさがあり、それぞれの子どもの感情をコントロールする方法を学ばせる必要性を強く感じていた。

そこで、道徳の時間を活用し、指導はこども支援コーディネーターとスクールメイトによるTTの形態をとった。スクールメイトがアイスブレイキングを実施し、後のプログラムは、こども支援コーディネーターが実施した。また、担任は生徒の反応を観察し、記録した。（スクールメイトは、あらかじめスクールカウンセラーからアイスブレイキングの実施に関するアドバイスを得ておいた。）

2) 展開例

- プログラム名 「感情の言葉」
- ねらい 「感情の言葉」を書き出し、日常の生活場面では、どのような言葉を使っているかを気づかせる。自分が言われてうれしい言葉といやな言葉について書き出すことで、どのような言葉遣いをすれば人間関係が円滑になるかについて考えることをねらいとした。

時間	展開	指導上の留意点・工夫
10分	①アイスブレイキング 「私は誰でしょう？」	①スクールメイトが芸能人等のふりをし、質問への返答から誰なのかをあてるアクティビティを実施する。質問は各班から一つとした。
10分	②班ごとに付箋を配り、各自が言われて「うれしかった言葉（肯定的な言葉）」「嫌だった言葉（否定的な言葉）」を書き出す。	②班の中で意見を十分に交流するように指示する。付箋は不足しないよう多めに用意する。
5分	③A3上質紙を二つ折りにして線を引き、左側上部に「肯定的な言葉」右側上部に「否定的な言葉」と書き、各自が書き出した付箋紙を左と右とに分けて貼り付ける。	③分類の際、同じ言葉はひとまとまりにするよう、指示する。

15分	④班ごとに、出てきた言葉をそれぞれまとめて発表する。	④発表者を決めさせておく。黒板に各班の付箋紙を貼り付けた用紙を提示する。
10分	⑤否定的な言葉や肯定的な言葉でどんな気持ちになったか、班ごとに答える。 ⑥まとめ 「感情」には「良い」「悪い」はなく、感情を表す言葉が他者を攻撃するものであるかどうかを考えなければならないことを理解する。	⑤班で2～3分話しあわせ、考えたことをまとめさせる。 ⑥どんな場合でも、よい関係を築いていくために相手の気持ちを考えた言動が必要であることを理解させる。また、否定的な言葉のほうが多くなる傾向があり、日常生活の中での言葉づかいについて、相手の気持ちになることが大切であることを認識させる。 次回は「感情のコントロール」について考えることを予告する。

3) 子どもの反応

○子どもの感想より

- ・「嫌な言葉」は発表するだけでも言っていると嫌な気持ちになった。
- ・普段の生活の中で友だちを思いやる言葉を増やしていきたいと思ったし、そういう言葉をかけてもらえるように自分自身も考えなくてはならないと思った。
- ・あだ名も言われて嫌なら、相手の気持ちを考えて言わないようにしないといけない。
- ・今までは、人の悪口を言ってたけど、今回の授業で気をつけようと思った。悪口は言ったり言われたりだったけど、これからは言われたら注意できるようになろうと思った。
- ・私たちは、人に言ってはいけない言葉、いやな言葉を生活の中でふつうに言っていることがわかった。自分が言われたらいやな言葉を、軽い気持ちで言っている。これからは言われて嬉しい言葉を増やしたい。



4) 実践者の声

○指導者の予想以上に子どもたちは反応してきた。「いじめ対応プログラム」が、仲間づくりに役立つ取組み集であることを実感でき、今後とも人間関係づくりの道徳教材として、十分に活用できると認識した。次時の取組みは、今回の実践と関連させて「感情を静める24の方法」のカードを使ったプログラムをしたいと考えている。

○学年の教員と連携して「班で取り組むレクリエーション」を入れながら、仲間づくりの再構築をしていこうと考えている。





黒板に人をからかう言葉が書いてあったが…

- 学校名 高石市立取石中学校
- 実施学年 1年1組（34名）
- 実施日時 平成19年11月 【総合的な学習の時間】
- 実施場所 教室

1) 全体の取組みの概要

本校では、いじめ対応プログラムを活用し、子どもたちが「いじめは絶対に許さない」という強い意志を持ち続けられるように支援をしたいと考えている。担任が実施を試みる前に、こども支援コーディネーターが実施し、担任の授業へつなげることにした。

1年生は、元気で活発な良さを持つ反面、平気で人を傷つけるような発言をしたり、また人を傷つけている意識が希薄であるように思われる。3年間のスタートの学年として、最も取組みが大切であると考え1年生を対象に年度途中の学級集団づくりのふりかえりとして実施した。

2) 展開例

- プログラム名 「ステレオあてっこ」「ピア・カウンセリング」「感情の言葉」「感情の強弱」
- ねらい 自分のことを伝える努力をすることや、相手の気持ちを大切にしながら話を聞くことによって、コミュニケーション能力の向上を図る。「感情の言葉」を考えたり、知ったりすることで、自分の感情をコントロールする力を身につける。また感情の感じ方は人によって違うことを理解し、互いを認めあえる集団としたい。

時間	展開	指導上の留意点・工夫
10分	①ステレオあてっこ ・グループで行う。 ・学級内で交流する。	①机を集めてグループで実施する。 ・まず担任が実際にやり方を示す。 ・子どもたちが互いに話しやすい雰囲気をつくる。
10分	②ピア・カウンセリング ・2人1組で30秒ずつ交互に行う。 ・好きなテレビ番組について ・今、頑張っていることについて	②1つのテーマが終わるごとに、どのような聞き方が相手にとって心地良いかをふりかえらせ、指導者がまとめる。
10分	③感情の言葉 ・白紙に感情の言葉をできるだけ多く書く。	③感情の性質について学び、考えさせる。 ・自分の感情を理解することによって、感情をコントロールできるようになることを学ばせる。

10分	<ul style="list-style-type: none"> ・嬉しい言葉、嫌な言葉に分ける。 ・感情の言葉を知る。 ・感情のリストを配付し、様々な感情の言葉を知る。 ④感情の強弱 ・「感情の言葉」の付箋を使って班で感情の強弱や使い方を話し合う。	④指導者が8個の感情の言葉をそれぞれ付箋に書かせ、それについて班で話し合うようにする。 ・感情の言葉…てれくさい、うれしい、うざい、びっくりする、くやしい、きもい、ドキドキする、さびしい
10分	⑤学級全体で交流する。 ⑥まとめ・感想	⑤黒板用に大きな付箋を用意し、いくつかのグループに話し合いの結果を発表させ、人はそれぞれ感じ方や思い方が異なることを学ばせる。

3) 子どもの反応

○子どもの感想より

- ・今日の授業で、自分が面白いって思ったことでも他の人には面白くなかったり、嫌だったりする言葉とか行動があるんやなあと思った。相手の気持ちをよく考えて、言葉や行動を選ぼうと思った。
- ・人それぞれ感じ方が違うってことをあらためて感じた。また、自分が何気なく使っていた言葉も言われた人からすると嫌な気持ちになるとあらためて感じた。これからは、使う言葉を考えて使わないといけなかった。



4) 実践者の声

- 初めは落ち着きがなく周囲をからかったり、話を最後まで聞けない子どももいたが、「ピア・カウンセリング」で聴き方を考えた後は落ち着いた雰囲気になった。
- 授業開始時、黒板に冗談で人をからかうような内容が書かれていた。そのことと授業内容を最後に結びつけた時に、子どもたちの表情から授業でやった意味が伝わったように感じた。また、黒板にからかいの言葉を書かれた子どもが、みんなの前で嫌な気持ちであったことをはっきりと伝えられたのは、授業の成果であったと思う。担任以外のこども支援コーディネーターが授業をすることから、子どもたちの反応が心配であったが、学級で直面している人間関係の問題もプログラムに取り入れ、人との対話や、感じ方の違いについて一緒に考えさせることができたのは素晴らしいことであった。
- 時間をかけ段階的に導入すれば、子どもたちのスキルアップは十分に期待できるが、そうでなければ、中学校では効果がないどころか逆効果になる恐れもあるのではないかと。良い取組みにしていくためにも、学年ごとの指導計画を作成し、より効果的に実施する必要がある。





選択授業の内容とリンクさせながら

- 学校名 東大阪市立小阪中学校
- 実施学年 第2学年（30名）
- 実施日時 平成19年9月 【選択授業】
- 実施場所 教室

1) 全体の取組みの概要

半期の選択教科として、「平和」「識字」「南北問題」等をテーマに、一回ずつの教材を用意して、授業を行ってきた。その中で、4月当初から授業の中で、ソーシャルスキルについて考えたり、人間の感情について考えたりしながら、人間関係を築く方法を考え、高めることを目的とした授業にも取り組んだ。

このような実践のなかに、「いじめ対応プログラムⅡ」のストレス・マネジメントを取り入れることにした。

2) 展開例

- プログラム名 「ホッとするとき」「リラクゼーション」
- ねらい ストレスに対する対処の仕方が、人によって違うことを知り、自分に合った方法を見つける。どこでもできる方法として、リラクゼーションの方法を挙げ、意識的にストレスに対処できるようにする。

時間	展開	指導上の留意点・工夫
15分	①最近の校内のできごと、感じていることを話す。	①指導者自身の話をすることで、生徒が安心して自由に話せるよう、場を設定する。
20分	②アイスブレイキング「バースデイチェーン」 ③「ホッとするとき」 ・各自で、自分が「ホッとする場面」を考える。 ・近くの人とペアになり意見交換する。 ・全体で発表する。板書して共有する。	
15分	④リラックスする方法として、意識的な深呼吸を紹介。 ⑤感想を聞く	③指導者がそれぞれの意見に対して、肯定的なコメントをすることで、個々の生徒が意見を言いやすい雰囲気を作る。

3) 子どもの反応

○子どもの感想より

- ・他の人が、自分と違う思いを持っていることを知り、お互い分かり合えることがあった。
- ・自分のことを話すのはてれくさかったけれど、伝えることができて良かった。
- ・言葉は大切だと思った。
- ・深呼吸するだけで気分が少し楽になった。



4) 実践者の声

- 深呼吸を使ったリラクゼーションを実施したときの表情が、どの子どもも真剣な表情だったので、逆に、子どもたちが日頃からストレスを感じながら生活していることを感じた。
- 「30人という少人数」「生徒指導主事の授業」「週に一度の教科書以外の学習」という環境と、4月当初からアイスブレイキングを取り入れ、ペアでの意見交換や、ワークシートを活用した学習、ロールプレイ等を実施していたので、子どもは違和感なく参加できたと思う。
- 学級で行うのであれば、この時間は「エンパワメントを高める時間」と言うように、ねらいを明確に子どもに意識させ、月に1～2回、系統立てて行うことも望ましいと思った。

資料

選択授業で実施したソーシャルスキルを高める取組み

①ロールプレイ

生徒代表と教員で見本を示し、次に生徒どうしておこなった。その後、全員に意見をきいた。

『街（学校）で、今まで話したことのない相手が「おはよう」と言ってきた。』

君ならどうする？

- A) 「おはよう」と言う。 B) 会釈だけする。 C) 無視。 D) さげる。

②あなたならどうする（心の境界線）

自分にとって、気に入らないことはどれか。また、その時どの様な態度をとるか考えて発表。全員で意見を聞き合った。

③感情の強弱

自分が言われて嬉しい言葉・嫌な言葉を書き出し、全員の意見を出しあい、話し合った。

④その他（バースデイチェーン）

「バースデイチェーン（音声なし）」を行い、言葉による情報がいかに大切か（聴覚にハンデをもたれている方の気持ちも考えた）や、表情をつけることで伝わることもあることを考えた。

子どもたちの表情が明るくなった！

- 学校名 太子町立中学校
- 実施学年 支援学級（11名）
- 実施日時 平成19年11月
- 実施場所 支援教室

1) 全体の取組みの概要

2学期後半から、新しく入級生を迎えたため、あらたな人間関係づくりのために、この取組みを実施した。今回の取組みでは、仲間の良いところに気づき、他者を肯定的にみることや、自分の良いところに気づき、自分を肯定的にとらえることを通して、支援学級の中での自分の心の居場所をつくる力を育てることをねらいとした。また、所属感が満たされることにより、子どもたちの心の安定をはかりたいと考えた。

2) 展開例

- プログラム名 「仲間の良いところを見つけよう！！」
- ねらい 仲間の良いところに気づき、人を肯定的に見る視点を養う。また、一人ひとりの良いところを見つけるという体験を通じて、周りにいる人たちを尊重する気持ちや温かい人間観を培う。

時間	展開	指導上の留意点・工夫
5分	①具体的な活動の説明	①わかりやすく、丁寧に説明する。スクールメイトをファシリテーターとしてプログラムを実践する。
30分	②仲間の良いところを考え、一人ひとりについて順次発表する。 ③発表した内容を「仲間の良いところシート」に順次、記入していく。	②具体的に例をあげながら説明する。否定的な表現が出ないように配慮する。例は、数多く出す。 ③良いところを見つけることで、うれしい気持ちになることに気づかせる。
10分	④それぞれ自分のシートを集め、画用紙にはり付ける。	④自分では気づいていない、自分の良いところに気づかせる。
5分	⑤まとめ	⑤それぞれに必ず良いところがあり、仲間の良いところを見つけることが大切であることを丁寧に説明する。

3) 子どもの反応

○仲間の良いところシートより

- ・ A君の良いところは、いつもやさしくて曲をかけてくれるところです。
- ・ Bさんの良いところは、やさしいところです。
- ・ C君の良いところは、卓球にさそってくれるところです。
- ・ Dさんの良いところは、絵がうまいところです。



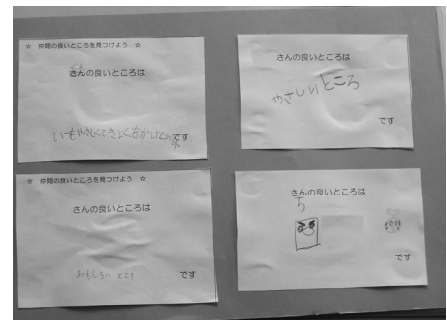
○子どもたちの感想より

- ・ 自分に自信が持てるようになった。
- ・ 何かうれしい気持ちになった。

4) 実践者の声

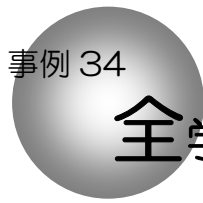
○相手を尊重する気持ちや自分を肯定的にとらえる和やかな雰囲気が自然とできあがり、子どもたちの表情が明るくなった。

○最後に、記入したシートを分け、自分のものを画用紙にはり付けることにより、自分の良いところを自分で見つけることができたと思う。学級におけるそれぞれの「居場所」「所属感」を高めることができ、心の安定をもたらすことができたように感じた。また、画用紙にはり付けたものを教室掲示することで、それぞれが常に良いところを確認できると同時にうれしい気持ちがよみがえり、教室の雰囲気が和むようになった。



○説明しながら進めていった部分も多くあり、スクールメイトのファシリテーターとしての役割は重要なものであった。時々、否定的な意見もでたが、その都度、説明をすることで、流れをつくることができた。今回は小集団での取組みであったが、計画的に実施すれば、もっと人数の多い集団でも可能であり、その効果は大きいと感じた。このプログラムについて職員間でもっと研修を深める必要があると思った。





全学年で生徒指導主事がプログラムを実施！

- 学校名 摂津市立第五中学校 全学年・全クラス
- 実施学年 第1学年(90名)、第2学年(87名)、第3学年(87名) 計264名
- 実施日時 平成19年10月～12月 【道徳】
- 実施場所 各教室



1) 全体の取組みの概要

本校区は、校区の児童・生徒の実態と課題から、今年度、「ルールからマナーへ」というキャッチフレーズのもと、自分の心や相手の心を考え行動できる児童・生徒の育成を目的に、人間関係づくりプログラムに取り組んでいる。いじめ対応プログラムⅡから、「感情の言葉」、「感情の強弱」を活用し、各学年の課題に合わせたテーマとねらいを選び*、3校共通で9年間の「人間関係づくり指導計画」を作成した。今回、小学校2校では、共通したプログラムを効果的に行えるよう教員間の連携を図り、中学校では3学年9クラスに生徒指導主事がファシリテーターとして入り、担任とT・Tでプログラムを実施した。

2) 展開例（中学校1年）

- プログラム名 「感情の言葉」「感情の強弱」
- ねらい 言葉で自分の気持ちを表現し、感情を表現する言葉が多くあることに気づかせ、否定的感情と肯定的感情があることを知る。人により、その感じ方が異なることを理解させる。

時間	展開	指導上の留意点・工夫
5分	①アイスブレーキング 「肩たたきのワーク」 1列に座り前の人の肩をたたき、曲の後半で座る向きを変えて交替する。	①BGMを流し、リラックスした雰囲気をつくる。
20分	②感情の言葉 白紙を配り、各自3分間で「自分の気持ち」を表す言葉を書き出す。 ③黒板に大人教ホームページからダウンロードした感情ポスターを貼って見せ、さらに2分間で書き出す ④何個書くことができたか確認する。	②自分や人の表情を思い浮かべると、その時の感情が思い出されることに気づかせる。 ③人により思い浮かぶ感情が違うことに気づかせる。

<p>20分</p> <p>5分</p>	<p>⑤たくさん書けた子どもに発表する。それ以外の言葉があった場合も発表する。</p> <p>⑥自分の気持ちで自分がうれしい時のものと嫌な時のものとに分ける。</p> <p>⑦感情リストを配り、知っているものに○をつける。感情ポスターにあてはまる気持ちを答えさせ、黒板に書いていく。</p> <p>⑧感情の強弱 班をつくり「感情の強弱」ワークシート1枚と付箋6枚を配る。 学級の中で出てきた「感情の言葉」の代表的なものと一緒に言葉を6個選び、付箋に書く。</p> <p>⑨「感情の強弱ワークシート」に班で相談して、⑧の付箋を貼り、発表する。</p>  <p>⑩ふりかえり</p>	<p>⑤どちらともつかない、という感情もあることや、人によって感覚が違うことに気づかせる。</p> <p>⑥知っているけど自分が使っていない言葉が多くあることに気づかせる。たくさん書き出す中で、自分の「感情の言葉」が増えたという実感をもたせる。</p> <p>⑧肯定的な感情と否定的な感情、どちらかに分類しにくいものなどを選ばせる。</p>  <p>⑨班の人たちの感じ方に共感できたかどうか、感じ方や言葉の使用頻度の違いに気づかせる。</p> <p>⑩今日の活動をいかし、一番うれしい時につかう言葉、一番嫌な気持ちの時につかう言葉を書かせる。同じ感情でも、人によって表す言葉が違ったり、言葉は同じでもそれを使う場面が違ったり、感情の強弱が違うことに気づかせる。</p>
----------------------	--	---

3) 子どもの反応

○子どもの感想より

- ・「気持ちを表す言葉」を思いつくのは難しかったし、「感情の言葉リスト」にも自分の知っている言葉が少なかった。一人ひとり、感じる気持ちは違っていてもおもしろいな~と思った。
- ・先生から紙を渡されて、感情を表す言葉を書きなさいと言われて、「楽勝や」と思っていたけど、いざ書いてみたら少ししか書けなかった。いろんな言葉が書かれているプリントを見ても全然知らん言葉もあったから勉強になった。



4) 実践者の声

- 子どもたちが笑顔で取り組みながら、一生懸命考える姿が大変ほほえましかった。
- 「あっ、これ感情の言葉や。」と授業が終わったあとに多くの子どもがお互いに話しているのが聞こえ、嬉しく思った。
- 担任以外の道徳の授業ということで、子どもも緊張していた。子どもたちの様子がすぐに変化したわけではないが、感情を上手に表現することが難しい子どもたちには、自分の気持ちに向き合う良い機会であったと考える。
- 生徒指導主事が学級で授業する形態なので、子どもが緊張することが予想されたが、終始なごやかな雰囲気だった。ゲストティーチャーであるからこそ、適度な緊張感の中で面倒くさからず自分の心の動きや言動を考えたり、他の生徒の思いに考えを巡らせることができたのかもしれない。
- 「感情の強弱」では、使用頻度が高い「気持ち」について、どんな時にその気持ちになるかを考えさせ、その感情が極度に強くなり爆発する前に誰かに相談することを体験させたり、リラックスする方法を見つけるということを考えさせるには、もう1時間は必要であったと感じる。この点については、担任も授業に入っており、日々の学級活動や指導の中で補うことが必要である。

資料 ※第五中学校区各学年でのプログラム実践計画
(鳥飼小学校・鳥飼東小学校・第五中学校)

学年	目標	プログラム
小1	自発的・創造的な表現力	何でしょう？(P.63)
小2	感情を表現する言葉を増やす	感情の言葉(P.38)
小3	心を大切にす	心の境界線(P.47)
小4	心の居場所をつくる	仲間の良いところを見つけよう(P.24)
小5	聴く姿勢・話す姿勢	ピア・カウンセリング(P.60)、他己紹介(P.61)
小6	非攻撃的な自己主張	I(アイ)メッセージで伝える(P.54)
中1	言葉で自分の気持ちを表現する	感情の言葉(P.38)、感情の強弱(P.40)
中2	居心地のよい集団をつくる	仲間の良いところを見つけよう(P.24)
中3	自分を見つめる	自分を知る(P.28)

(2) 地域等をフィールドとした実践

小中連携、生徒会活動、クラブ活動など、様々な場面でいじめ対応プログラムは実践されています。また、不登校傾向のある子どもが通っている適応指導教室の活動での実践、地域教育協議会など保護者や地域の方を対象とした実践などを紹介します。

■ 実践事例 ■

- | | | |
|-------|-------------------------------|--------------------------|
| 事例 35 | 中学生から小学生へ、いじめをなくすメッセージ (小中連携) | 寝屋川市立第一中学校
東小学校・中央小学校 |
| 事例 36 | 何ができるか、みんなで考えてみよう (中学校・生徒会) | 貝塚市立第四中学校 |
| 事例 37 | ストレッチはコミュニケーション! (中学校・部活動) | 東大阪市立弥刀中学校 |
| 事例 38 | あいこじゃんけんから円陣バレーへ (適応指導教室) | 大阪狭山市適応指導教室 |
| 事例 39 | 自然の中でココロをひらく (適応指導教室) | 高石市適応指導教室 |
| 事例 40 | 地域+学校=大人のネットワークづくり (地域・保護者) | 泉佐野市青少年問題講演会 |
| 事例 41 | 地域ぐるみで「いじめNO!」宣言 (地域・保護者) | 松原市地域教育協議会 |

中学生から小学生へ、いじめをなくすメッセージ

- 学校名 寝屋川市立第一中学校・東小学校・中央小学校
- 実施学年 第一中1年生(196名)、東小1年生(102名)、中央小1年生(96名)
- 実施日時 平成19年11月 【特別活動】
- 実施場所 寝屋川市打上川治水緑地公園

1) 全体の取組みの概要 ～小中合同なかよし遠足～

寝屋川市では、小学校と中学校の段差をなくし、義務教育9年間を見通した継続性、系統性、計画性のある教育をすすめるために、小中一貫した教育に取り組んでいる。

本中学校区では、毎週1回、小中学校の教員が集まって、校区の子どもたちについて話し合う「一中校区子ども支援会議」を開催している。その会議で、中学校1年生が、校区2小学校（東小学校・中央小学校）の1年生を公園へ遠足に連れて行くという企画がもちあがった。まず、教員がしっかりと話し合い、子どもたちに任せる部分と大人が責任を持つ部分を決めた。その上で、子どもたちに任せた部分は、教員は一切口出しをしないことも確認した。また、子どもたちをどの部分では、どのようにほめるかも意思統一をした。

中学生は、事前に小1の担任に質問したり、自分たちで何度も相談したりして、小学生をどうやって楽しませるか考えた。小学生に対し、ゲームの指導を計画している中学生に「いじめ対応プログラムⅡ」のいくつかを紹介したところ、この2つを選んで、小学生との交流を図ることになった。

2) 展開例

- プログラム名 「あいこじゃんけん」「なが～いおつきあい」
- ねらい 中学生の指導で小学生が楽しい体験をすることを通して、中学生は自己有用感を高め、同時に小学生は校区に頼もしい先輩がいることを実感させる。

時間	展開	指導上の留意点・工夫
9:00	学校出発→治水公園に到着	中学生が指示して小学生を整列させる。
9:30	はじめのあいさつ	中学生実行委員からあいさつ。(教員は前に出ない)
9:45	ウォークラリー開始	中学生がすべての行動を指示。
10:00	ウォークラリー終了	最初の場所に集合。
12:00	おわりの会(表彰式)	中学生実行委員から表彰等を行う(教員は前に出ない)
12:05	お昼ごはん	中学生と小学生と一緒に仲良く食べる。
12:15	自由	小学生と中学生が仲良く元気に遊んでいた。
12:40	お別れ	中学生実行委員からあいさつ。

3) 子どもの反応

- ・ぼくは、いろいろなあそびをしておもしろかった。中でも、クリップつなぎは、つなげるのがむずかしかったけど、おもしろかった。おべんとうがおいしかった。からあげがーばんおいしかった。また一中のおにいさん、おねえさんとあそびたいです。ほんとうにほんとうにおもしろかったので、またいって、いっぱいいっぱいあそんでほしいです。(東小1年男子)
- ・きょう、「なかよしえんそく」でした。「クリップつなぎ」は、いろのじゅんばんでやると、きれいでした。ほかにもいっぱいたのしいゲームがありました。またやりたいです。(中央小1年女子)
- ・「みんなで合わせて」(あいこじゃんけん)は、ジャンケンをみんなで合わせるゲームだったので、材料を準備する必要がなく、どこでも楽しめるものです。当日、小学1年生はとても楽しんでくれました。ルールもきちんと守ってやってくれてよかったです。お弁当を食べているときにみんなでこのゲームをしていて、その時、このゲームをやって本当に良かったと感じました。(第一中1年ゲーム係)



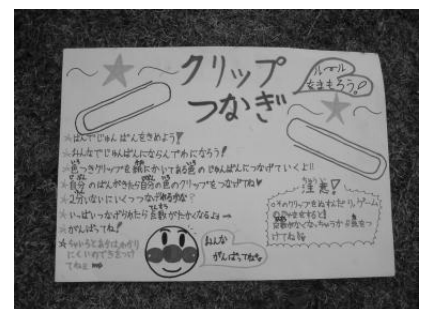
4) 実践者の声

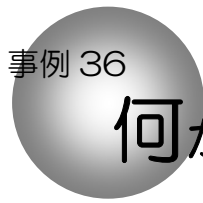
○中学生は説明のために、画用紙を使ったり、身振り手振りの説明を工夫したりして、とても楽しそうであった。また、小学生にとっても楽しいゲームだったようで、制限時間が終わっても、ずっと楽しんでいるグループもたくさんあった。



○今回は、導入用の簡単なアクティビティーであったが、もう少し高度なものを中学生が小学生にすることを企画してもおもしろいのではないかと感じた。

○子どもたちに適度な負荷を与え、それを大人がみんなでしっかりほめることが、子どもたちの自己有用感を高めるために何より大切なことであると思う。この遠足のあと、いじめにつながる子どもどうしのトラブルが解消したことは偶然ではないと思う。いじめめる必要のない心の状態になったからだと思う。





何ができるか、みんなで考えてみよう

- 学校名 貝塚市立第四中学校
- 実施学年 生徒議会（1～3年 委員56人）
- 実施日時 平成19年11月（「いじめを許さないぞキャンペーン」の一環）
- 実施場所 生徒会室他

1) 全体の取組みの概要

本校では、すべての生徒にとって、居場所のある学校をめざし、いじめや暴力行為を見逃すことのない支えあえる集団づくりに努めている。また、生徒の自主・自律の力を育成するために、生徒会活動をはじめとした生徒の自主活動に精力的に取り組んでおり、今回の取組みは、生徒会が年間14回のキャンペーン活動を実施しているうちの一つである。

【いじめを許さないぞキャンペーン】 11/19(月)～11/26(月)

- ねらい いじめは人として決して許されない行為であることを共通認識させる
- 取組み
 - ・全校集会で生徒会による劇 + 道徳(命の大切さ)
 - ・道徳アンケート
 - ・垂れ幕 “私は、絶対いじめを許さない！！”
 - ・朝の読書時にいじめのプリント学習(3回シリーズ)
 - ・生徒議会でいじめ対応プログラムⅡ「問題解決の4段階」を活用する
 - ・いじめアンケートの結果を通して、学級でいじめについて考える
 - ・生徒会執行部がいじめに対するアピールを全体集会で発表する

2) 展開例

- プログラム名 「問題解決の4段階」
- ねらい 生徒会、学級代表に、もし自分のクラスにいじめがあったとき、どのように解決していくべきなのか、みんなで考えさせ、問題解決する力を身につけさせる。さらに、クラスでいじめが起こったときに今回の内容にそって行動することを促す。（今回は様々なクラスの状況があるので具体的な問題点は指導者が設定した。）

時間	展開	指導上の留意点・工夫
5分	①縦割り（1組、2組…）で5、6人のグループをつくり、ワークシートを配る	

20分	<p>②具体的な問題点を【仲間はずし】と設定し、ワークシート（資料1）に従い、(ア)～(エ)の4段階の考え方を使って解決策を探っていく。</p> <p>(ア)「なにが問題？」 相手に望むこと</p> <p>(イ)何ができるか考えよう →できるだけたくさん挙げる。実際自分にできないことでも意見をしていく。</p> <p>(ウ)「えらんでためそう」 →自分にできそうなことを選び<u>実行する</u>。</p> <p>(エ)「ためして、みなおそう」</p>	<p>②上級生が中心となってしっかりと話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回は【仲間はずし】と教員側から設定したが、実際に自分たちのクラスで具体的に問題として起こっていること、起こっていても実際あるものとして真剣に考えさせる。 ・いじめには、いじめている側、いじめられている側、傍観者の3つの立場があることに気づかせ、考えさせる。 ・他のいじめについても同じように考え行動して、いじめのないクラスをつくっていきこう。
-----	---	---

3) 子どもの反応

○子どもの感想より

- ・いじめを許さない学校をつくるには、見ている人が、重要じゃないかと思う。いじめをされている人には、原因は絶対はない。助けを求めるにも勇気がいる。
- そんな中、いじめがもし起こってしまった時、一番重要なのは、周りで見ている人。傍観者は、いじめられている子に手をさしのべることもできるし、いじめをとめることもできる。できることをすれば、いじめはなくなる。いじめは、絶対に許してはいけない。(中略)この頃、いじめに関しては、ほとんど聞かない。でも、ぼくは、絶対にいじめが始まる前に気づきたいと思うし、その段階でとめたい。これからもいじめについて考えていきたい。



4) 実践者の声

- 1学期に仲間づくり月間等の取組みを実施しており、生徒議会に参加する生徒はいじめを許さない意識を強くもっていた。それをより深めるために、「問題解決の4段階」を使った。次回は、生徒会で寸劇をしてそれを題材に議論するとか、最初から生徒に具体的な問題点を考えさせていくような方法をとっていきたい。そのとき今回のように、「いじめ対応プログラムⅡ（問題解決の4段階等）」を使用して行うことは、生徒にとって、いじめを考える良い機会になると思うので、今後も活用をしていきたいと考えている。

問題解決の4段階

(ア)「なにが問題」

具体的な問題点 【仲間はずし】
自分自身の課題

- ・ やめさせる ・ 声をかけてあげる ・ 周りの様子を見て気づいてあげる ・ 注意する
- ・ 先生に言う ・ 相談にのる ・ 見て見ぬふりをしない ・ 小さいことでも行動する

相手に望むこと

- | | | | | |
|----|--------------|-------------------|------------|-------|
| 加害 | ・ やめて欲しい | ・ される側の気持ちを考えて欲しい | | |
| 被害 | ・ 助けを求めて欲しい | ・ 学校には来て欲しい | ・ 逃げないで欲しい | |
| | ・ 意見を言って欲しい | ・ 明るく振る舞って欲しい | | |
| 傍観 | ・ 見て見ぬふりをしない | ・ 声かけをする | ・ 先生に言う | ・ とめる |

(イ)「何ができるか考えよう。」できるだけたくさん書いてみよう

- ・ 見ているだけでなく注意する
- ・ 周りの様子を見る
- ・ 声をかけてあげる
- ・ 様子がおかしかったら「どうしたん？」と聞く
- ・ クラスで話し合う
- ・ 仲間に入れてあげる
- ・ いじめをやめさせる仲間をつくっていく
- ・ 先生に言う(自主学に書く)
- ・ 先生に話し合いの場を作ってもらう
- ・ 見て見ぬふりをしない

(ウ)「選んでためそう」試してみようと思うものに○をつけて、試してみよう

(エ)「試して、見直そう。」うまくいかなかったら、理由を考えて(イ)に戻って考えてみよう。

「問題解決の4段階」 ワークシート

<p>☆ 問題解決の4段階 ☆</p>
<p>(ア) 「なにが問題？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な問題点 ・ 自分自身の課題 ・ 相手に望むこと
<p>(イ) 「何ができるか考えよう。」 できるだけたくさん書いてみよう</p>
<p>(ウ) 「えらんでためそう。」 試してみようと思うものに○をつけて、ためしてみよう</p>
<p>(エ) 「ためして、みなおそう。」 うまいかなかったら、理由を考えて(イ)に戻って考えてみよう</p>

【記入例】

- (ア) ・ (具体的な問題点) 学級で何かを決める時に、なかなか決まらない。
- ・ (自分自身の課題) 皆の前で意見を言うのが恥ずかしい。良い意見を思いつかない。
- ・ (相手に望むこと) どんな意見でもいいから言ってほしい。
- (イ) ・ 全体で話し合う前に4～5人のグループで意見を出し合う。全員が意見を発表するようにする。楽しい雰囲気での話し合いをする。など
- (ウ) ・ 4～5人のグループごとに話し合い、意見をまとめて、それをもとに学級全体で話し合う。



ストレッチはコミュニケーション！

- 学校名 東大阪市立弥刀中学校
- 実施学年 柔道部（男子6名・女子4名）
- 実施日時 平成19年12月 【部活動】
- 実施場所 柔道場

1) 全体の取組みの概要

部活動において、柔道は礼に始まり礼に終わることを大切に、心身の向上と自分を高めるために相手に対して尊敬の念をもちつつ、厳しい練習に励むよう日々指導している。

今回、試合に向けて、厳しい練習に励んでいる生徒たちの心と身体をほぐす意味も含め、ボディコンディショニング*の取組みを行った。

2) 展開例

- プログラム名 「リラクゼーション」「ストレッチ」
- ねらい 子どもたちがストレスを強く感じているときは、心と身体が緊張状態になっており、体の緊張をほぐすことによって自分に合ったリラクゼーションを身につけさせる。また、ストレッチとマッサージを取り入れることにより、最近希薄になっている人間関係（スキンシップ）を見直してみる。

時間	展開	指導上の留意点・工夫
5分	①3分間の深呼吸をする。	①各自それぞれのポジショニング（畳の上なので、寝姿勢もOK）で、呼吸数をカウントさせる。数を意識させる（できるだけ少ない数で）ことで、肺の中の空気を吐ききらせる。吐ききることによって、最大限の吸入ができることを理解させる。
20分	②2人1組になり、交替でストレッチの補助をする。	②個々の子どもにより、違いがあるので、コミュニケーションを取らせながら、60～70%の負荷で行わせる。場合によっては、危険な部位を相手に委ねるのだから、信頼の上に成り立つペアリングだということを意識させる。（同性とペアになるように留意する。）

20分	③2人1組でマッサージを行う	③一方的に自分のペースでマッサージを施すのではなく、相手の要望に応じたり、負荷のかけ方の調整をしたり、スキンシップを介したコミュニケーション能力の向上に繋げる。
3分	④まとめ	④各々がどういう点に注意して相手と接したかを確認し、受ける側・施す側両面での感想を聞く。

※ボディーコンディショニング

自身の心身の状態を体感し、表現させることで、自己肯定感を高めることにつなげる。呼吸法・ストレッチ・筋トレ・マッサージ等を行う中で、ペアの相手とのコミュニケーションを深める。

3) 子どもの反応

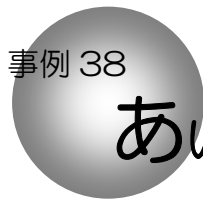
○子どもの感想より

- ・気持ちが落ち着く。
- ・ペアの人が喜んでくれると自分も嬉しい。
- ・意外と気持ちよかった。寝てしまいそうになった。
- ・相手のツボがわかるようになってきた。
- ・「こうしたら、相手は気持ちいいかな?」とか「このくらいの力を入れたら痛がるかな?」とか考えたらすごく楽しくて、逆にやってもらっているときにも、相手も同じ事を考えながらやってくれるので、安心してすごく気持ちよくやってもらえました。
- ・2人組のストレッチは面倒だったけど、1人より2人でやった方が気持ちいいと思った。
- ・最初は緊張したけれど、慣れてくると楽しくなってきました。
- ・習ってきたことを、家でお父さんと一緒にやりました。



4) 実践者の声

- 普段、教室の授業では落ち着きのない生徒も、集中して積極的に取り組んでいた。
- 最近稀薄になっているスキンシップを敢えて取り入れた取組みを実施した。ストレッチでは、各々の柔軟性も異なるし、マッサージにおいても、痛みや心地よさの部位・負荷が異なるわけで、互いに十分なコミュニケーションを図らないことには前に進まないようになっている。子どもどうし、子どもと教員の間信頼関係がないと、危険部位や痛みを伴う部位など、相手に委ねることなどできないので、互いの距離が近づいたように思えた。



あいこじゃんけんから円陣バレーへ。

- 施設名 大阪狭山市教育委員会 適応指導教室「フリースクール み・ら・い」
- 実施学年 通室生徒（4名）
- 実施日時 平成19年11月
- 実施場所 活動室

1) 全体の取組みの概要

適応指導教室に通う子どもたちは、午前中は主に学習、午後は自主活動が中心で、読書やトランプなどのカードゲーム、卓球などをして過ごしている。

指導員や学生ボランティアの指導による活動が多いため、市主催研修でプログラムについて研修を受けた指導員が子どもたちとの積極的な交流による指導を促すプログラムの1つとして、午後の活動の前に実施した。

2) 展開例

- プログラム名 「あいこじゃんけん」
- ねらい プログラムの実施によりコミュニケーションをとり、今後の活動や人間関係づくりに活かす。

時間	展開	指導上の留意点・工夫
5分	①指導員が生徒、学生ボランティアに対してルール説明。	①学生ボランティアも子どもの中に入って説明を受ける。子どもたちがリラックスできるように配慮する。 ②～④指導員が学生ボランティアと一緒に雰囲気盛り上げ、かけ声をかけて、プログラムのテンポをあげていく。
5分	②じゃんけん（負け）3回 指導員対全員でじゃんけんをする	
	③後出しじゃんけん（あいこ）3回	
5分	④あいこじゃんけん	

3) 子どもの反応

○子どもの感想より

- ・うまくいけへん。難しい。
- ・どうやったら、みんなが揃うか考えた。
- ・いままであんまりしゃべったことのない子とも話してた。
- ・みんながおっきな声で笑っておもしろかった。



4) 実践者の声

○適応指導教室に通う子どもたちの中には、学習面のつまずきや人間関係づくりが苦手なことが原因で心の元気がなくなり、学校へ登校するエネルギーが喪失するような状況が見られる。普段の活動でも子どもどうしのつながりより、スタッフを介してコミュニケーションを図る場面が多かった。そこで、このプログラムを通じて、子どもたちとの関係に新しい動きをつくるきっかけになればと考え、学生ボランティアとともに実施した。

○最初は、子どもたちの間で「なんでこんなんするん？」という感じがあったが、進むにつれて、表情も和らぎ、元気が出てきた。徐々に真剣な表情に変わっていった。

○この後の適応指導教室の行事（体育館での運動）は「円陣バレーで何回続くか？」などコミュニケーションをはかるためのプログラムを中心に行ってみた。プログラムの実施と重ねることで、「相手を思いやる気持ち」が少しずつ具体的な行動にとつながったように感じた。



自然の中でココロをひらく

- 施設名 高石市立教育研究センター
- 実施対象 小学1年生～中学3年生（9名）
- 実施日時 平成19年11月
- 実施場所 紀泉わいわい村（「つれづれデイキャンプ」にて実施）

1) 全体の取組みの概要

市教委主催の「つれづれデイキャンプ」では、不登校、または不登校傾向のある児童生徒を対象に、子どもどうしや、子どもと教員の交流の中で温かい人間関係を体験することをねらいとして、野外活動を実施した。市教委指導主事、センター所員、所属校教員が指導にあたり、第1部では「いじめ対応プログラムⅡ」から選んだ3つのプログラムを活用したワークショップを、第2部では自炊体験を、第3部では自然体験プログラムとして草木染めを実施した。

2) 展開例

- プログラム名 「ステレオあてっこ」「感情の言葉」「感情の強弱」
- ねらい 不登校の子どもたちの中には、人間関係づくりの難しさが要因になっている場合がある。自分の気持ちをコントロールしたり、適切に表現できるようにするために、自他の感情を大切にすることをねらいとした。

時間	展開	指導上の留意点・工夫
15分	①ジャンケンであいこになった人と2人1組になる。	①小1、小2の児童には指導者が補助に入る。二人一組になるとき、普段の人間関係でかたまりないように配慮する。
20分	②「ステレオあてっこ」をする。 ③「感情の言葉」をする。 ・各自で感情の言葉をできるだけたくさん書き込む。（5分） ・言葉の数を数える。 ・うれしい言葉、いやな言葉に分類し、それぞれの数を数える。	②3人組になった1組は3音の言葉で行う。 ③数の多さを競うのではないが、感情を表す言葉をたくさん表現できることの意義を説明する。 ・自分が思いつかなかった感情の言葉を知ること で、より豊かな感情の表現に気づかせる。 ・肯定的な感情と否定的な感情とどちらも大切であることを教え、感情は表現することでおだやかな気持ちになれることを体験させる。

20分	<p>④「感情の強弱」をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「感情の言葉」で出た言葉を相談して10個選び、各自付箋に書き込む。 ・各自ワークシート「気持ちのグラフ」に10枚の付箋を貼り付ける。 ・完成したらペアの人と見比べてみる。 ・気づいたこと、感じたことを発表する。 	<p>④一人ずつにワークシートと付箋10枚を配る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あとで比較するために、10個の言葉は同じものにする。肯定的なもの、否定的なものバランスなどに留意する。 ・小1、小2児童は指導者がつき、一緒にやる。 ・正解、不正解はない、ということを説明する。 ・いろいろな感じ方があることを理解させ、他者の感情を尊重することの大切さを指導する。
10分	⑤感想を書く。	

3) 子どもの反応

○子どもの感想より

- ・「ステレオあてっこ」は、こえをそろえてというのがむずかしかったけど、うまくいった。みんななかなかわからなかったのがおもしろかった。(小1男子)
- ・「感情の言葉」では、みんなたくさん書けていたのでびっくりした。言われてみれば気持ちを表す言葉はいっぱいあるなあと思った。(小4女子)
- ・「もどかしい」という言葉をはじめて知った。そんな気持ちになることがある。(小6女子)
- ・「もやもやした気持ちも、言葉にすることで少しはっきりして落ち着いてくる」って先生が言ってたけど、なるほどなあと思った。(中1男子)
- ・感情のグラフを作ったとき、「きもい」という言葉が、私の貼ったところと〇〇ちゃんの貼っていたところがぜんぜん違うので驚いた。「人によって感じ方が違う」って先生が言ってたけど、「きもい」とかよく言うってしまうので、相手が嫌な気持ちになってないか気をつけようと思う。



4) 実践者の声

○野外活動の中のプログラムとして実施したが、教室とは異なる自然の多い場所で気分も開放的になっており、人数も10人程度で、リラックスしてできたと思う。今後の活用として例えば、中1の春のオリエンテーションなどのクラス別や班別のプログラムとしても効果的に取り組めるのではないかと感じた。

○小1から中3までという幅広い年齢層を対象にしたために、難しい部分があった。同じぐらいの年齢の子どもを対象に行う方がより効果的ではないかと思う。

○人間関係づくりにつまずいている子どもが少なからずいるので、仲間づくり・自己開示・他者理解に役立てることができると思った。



地域＋学校＝大人のネットワークづくり

- 会合名 泉佐野市青少年問題講演会
- 参加者 地域の青少年に関する各種団体・管理職・生徒指導担当教員
- 実施日時 平成 19 年 11 月
- 実施場所 泉佐野市生涯学習センター多目的室

1) 全体の取組みの概要

学校が地域と連携しながら、地域活動をより活性化することをねらいとして、例年実施している青少年問題講演会に「いじめ対応プログラムⅡ」から5つのプログラムを活用し、効果的な参加体験型研修に取り組んだ。

2) 展開例

- プログラム名 「あいこじゃんけん」「感情の言葉」「気持ちをしずめる方法」「ピア・カウンセリング」「他己紹介」
- ねらい 地域や学校で子どもたちに活用するために、まず大人がこのプログラムの良さを理解する必要がある。そのため、取り組みやすいものを選択した。「感情のコントロール」は、子どもにとっても必要であると考え、選んだ。

時間	展開	指導上の留意点・工夫
20分	①あいさつ	①地域の人々に、学校の取組みを知ってもらう等。
25分	②趣旨説明・概要説明	②地域・教職員にそれぞれの立場での活用を視野に入れた趣旨説明を行い、なぜこの研修が必要なのかを理解してもらうよう心がける。
60分	③「あいこじゃんけん」「感情の言葉」「気持ちをしずめる方法」「ピア・カウンセリング」「他己紹介」	③参加者の方には、初対面の人がいるので、なごやかな雰囲気になることを心がける。 ・地域の人々にもわかりやすく説明することを心がける。 ・高齢の方にも取り組みやすい内容や方法を工夫する。
15分	④質疑応答	

3) 参加者の感想等

- ・参加することによって、私自身の気持ちが穏やかになりましたし、楽しく参加できました。「感情の言葉」についてもなるほどと思うことばかりでした。
- ・体験型だったので、いつもと違う角度で理解できた。
- ・冊子の中にあるワークシートの中から対生徒に使えるものを発見できた。
- ・「感情の言葉」を増やしたいと思いました。子どもにかける声にも幅が広がると感じました。職場に持ち帰ろうと思います。
- ・子どもに接する時に、話を聴く態度が養われた。
- ・何も道具を使わず、楽しい思いをシェアできた。
- ・感情を取り扱うことは、今まであまりなかったが、今後必要だと思う。
- ・子ども理解、子どもにどう対応すればいいのか、ヒントを教えてもらい、助かりました。

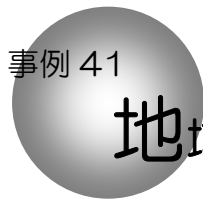


4) 実践者の声

○地域の高齢者の方や、各団体の代表の方が参加されていたので、リラックスした実践となるよう心がけたが、なごやかな雰囲気の中、自分の感情を見つめる等、子どもにも指導する意欲をもっていたのではないかとと思う。

○管理職や生徒指導担当者も、実際に体験することにより、このプログラムの必要性を感じたのではないかと。学校内での推進役や、実践者になってもらえるのではないかと考える。





地域ぐるみで「いじめNO！」宣言

- 団体名 松原市立松原第五中学校区地域教育協議会
- 対象 松原五中校区学校園保護者及び地域在住の方（45名）
- 実施日時 平成19年11月
- 実施場所 「いきいき環境フェスタ」会場内 天美西小学校ランチルーム

1) 全体の取組みの概要

松原第五中学校、天美小学校、天美西小学校、天美幼稚園からなる松原第五中学校校区では、「地域で子どもたちを育てよう」という地域の思いのもと、地域教育協議会を中心にクリーンキャンペーン、陶芸教室、天文教室等の取組みを進めてきた。その中でも一番大きな取組みが五中校区「いきいき環境フェスタ」である。「であい ふれあい むすびつき」をテーマに地域の多くの組織や団体・学校園・PTAが集い、展示やバザー、各校園の取組みの発表などが毎年行われてきた。



今年度のフェスタの開催にあたり、五中校区の地域教育協議会では、大阪府教育委員会より「いじめ対応プログラム」が示されたことを受け、五中校区として、「いじめNO！」宣言ができるよう、NPOによるワークショップを校区の保護者や地域に広く呼びかけ開催することとした。

2) 展開例

- プログラム名 「あいこじゃんけん」「感情の言葉」「ピア・カウンセリング」
- ねらい いじめをなくすために、子どもだけでなく、まわりの大人が自らをエンパワメントすることの大切さに気づく。さらに、学校・家庭・地域が連携し、五中校区として、「いじめNO！」宣言ができる気運を高める。

時間	展開	指導上の留意点・工夫
5分	①主催者挨拶とNPO紹介	①6人程度のグループが作れるよう、机・いすを配置。
25分	②講話	
25分	③「あいこじゃんけん」	②NPOのファシリテーターより、子どもをいじめの被害者にも加害者にもしないために、育てた

5分	④「感情の言葉」 ⑤「ピア・カウンセリング」 ⑥主催者まとめ	い6つの力の説明。 ⑥学校と家庭・地域が連携する大切さや、ワークショップを通して家庭での子どもとのかかわりについてみんなで考えようという趣旨を伝える。
----	--------------------------------------	--

3) 保護者等の反応

○参加体験型という形式だったので、参加者がアクティビティに戸惑いなく参加できるかを心配したが、ファシリテーターの巧みな言葉がけやアドバイスにより、終始、和やかな雰囲気です研修を進めることができた。そして、3つのアクティビティを通して、感情を「伝える・受けとめる」、気持ちを「聴く」ことの大切さやその「スキル」について、保護者に学ぶ場を提供できたことは大変意義深いことだったと思う。



○保護者の感想より

- ・いじめが起こるといことは、しょうがないことだと半分あきらめていました。でも子どもの感情を大人の私たちが一つひとつ丁寧に拾い、整理することができれば変わっていくのではないかと考えが変わりました。様々な感情、特に嫌な感情を素直に出せるように大人が受け入れ体制をとってあげられるよう、大人の私たちも6つのスキルをしっかりと身につけられたらと思いました。
- ・自分自身のカウンセリングをしてもらったようで楽しい経験でした。普段自分のことをあまり深く考えなかったのが、これからはいろいろ自分の内なる声も聴いてみたいと思います。また、子どもたちの話をいつでもよく聴いてあげられる自分でいたいと思います。

4) 主催者の声

○五中校区では、これまでも「いじめのない学校づくり」をめざし、三校一園で協力して取り組んできた。また、地域でも子どもの安全を守る活動等が進められている。今回、「いじめ対応プログラム」をこの「いきいき環境フェスタ」の場において実施したことは、地域の「子どもたちは、学校だけでなく、地域全体で守ろう」という思いと合致して、参加した保護者や地域の方に好評であった。

資料

「五中校区『いじめNO!』宣言」

『いじめNO!』宣言

子ども・大人・地域 みんなの力で

ワークショップ

子どもをいじめから守り、命を育む大人になるために！！

「こころ」と「からだ」を動かしてみませんか

いじめをなくすためには、学校の取り組みと共に、学校と家庭・地域が協働して、子どものエンパワメント（生きる力や勇気を引き出すこと）につなげることが大切です。子どもの中には、学校の中に心の居場所を見いだせない場合があります。そのようなときに、保護者をはじめ、地域に信頼できる大人がいることが、また、その人たちとのかかわりが、自分を勇気づけることとなります。地域の大人たちの子どもを見守るまなざしが、子どもにとってぬくもりのあるセーフティネットとなります。

ぬくもりのあるセーフティネットをさらに築き上げるために、「人と自然に優しい街」を目標にして開かれるフェスタで、ワークショップ「子どもの命をはぐくむ大人になるために」を本部事業として開催します。ワークショップでは、参加者が体を動かすことにより、家庭や地域で子どもたちに対して「いのち」「こころやからだ」の大切さを考えさせる具体的な方法を学ぶことができます、地域のみなさんのご参加をよろしくお願いします。

発展 高等学校におけるピア・メディエーションの取り組み

子どもたちのもめ事を、同級生が中立の第三者の立場で解決する「ピア・メディエーション」という手法があります。問題解決を望む2人の間に、同じ立場の人間（ピア）が仲介役として入り、話し合い（メディエーション）を進めている高等学校での実践を紹介します。

みんなの手で、もめごとSTOP！ やんちゃくれパワーのスキルアップで、
いじめ、トラブル撲滅や！！（高等学校・全学年） 大阪府立茨田高等学校

みんなの手で、もめごとSTOP！ やんちゃくれパワーのスキルアップで、 いじめ、トラブル撲滅や！！

- 学校名 大阪府立茨田高等学校
- 実施学年 全学年
- 実施日時 平成19年度 【総合的な学習の時間・部活動など】
- 実施場所 メディエーションルーム・教室等

1) 全体の取組みの概要

本校生徒の課題として、「他者の話をきちんと聞けない」「自分の意思を他者に的確に伝えるのが苦手」等があげられる。そのため、適切な友人関係を築けない生徒が多くみられる。また、学校での日常生活においても「やる気がでない」「部活動に参加しない」「遅刻・欠席が多い」「ルールを守ることができない」「授業中にじっとできない」「安易に問題行動にはしる」などの傾向がみられる。

そこで、生徒に「ルールを守る力」「聞く力・伝える力」「違いを認める力」等をつけさせることが大切であると考え、「ピア・メディエーション」プログラムを取り入れることで、生徒自身の問題解決力を引き出しながら「仲間とのトラブルを見逃さず、生徒自らでいじめやもめごとに対応する学校文化」を創っていくことをねらいとし、取り組むこととした。

2) ピア・メディエーションプログラムの概要

- ねらい 対立を恐れず、もめごとにも真正面から取り組む人格を育み、仲間どうしのトラブルを見逃さず、生徒自らがいじめやもめごとに対応できる人間関係づくり、学校づくりをねらいとしている。

①争いごと解決学習の基本を学ぶ。

ぶつかりあいには悪くない／紛争にはメカニズムがある／Win-Win[※]の解決策を探す等

※Win-Winとは、「自分も勝ち、相手も勝つ。それぞれの当事者が欲しい結果を得る」という考え方

②トラブルをキャッチする。

人間関係の修復／迅速なもめごとの処理／相談、連絡、解決への意思確認／感情面への対応も含む問題解決策

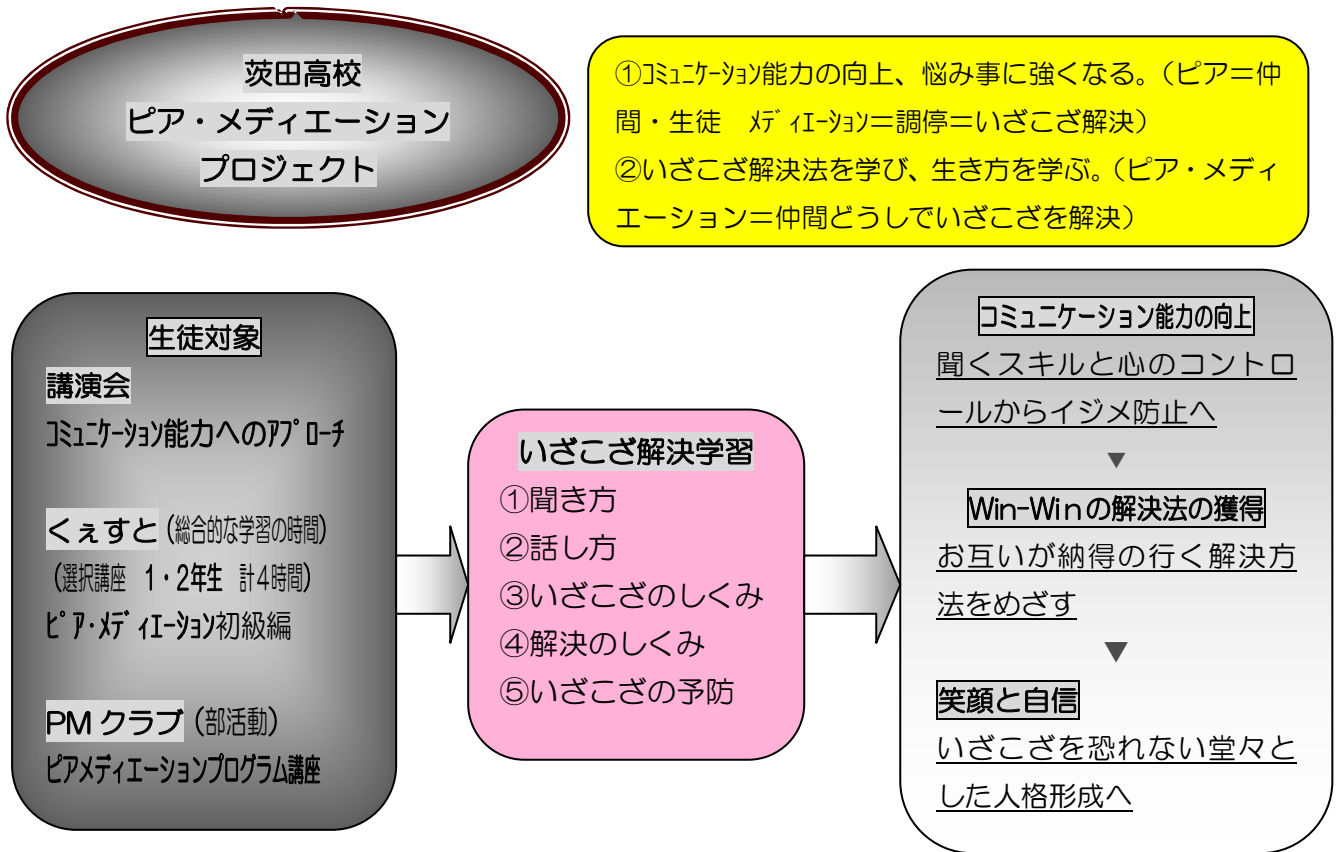
③仲間のトラブル解決を支援する。

紙上なやみごと相談／見回り活動等

④いじめや問題行動を防止する活動を行う。

調査／PR活動／広報

●プログラム名 ピア・メディエーション プログラム



3) 子どもの反応

- ①プログラム学習を通して…→「対立って悪くない。」
 - ・「対立」をとらえ直す。
 - ・紛争にはメカニズムがあることを学ぶ。
 - ・Win-Winの解決策もあることを知る。
- ②トレーニング、擬似体験(ロールプレイ)を通して…→「トラブル事を恐れない。」
 - ・聞くことのスキルを身につける。
 - ・怒りや感情への対処法を理解する。
 - ・人間関係について考える。
- ③部活動を通して…→「仲間のもめごとを見過ごさない。」
 - ・共感パワーで仲間を支援できることを知る。
 - ・意見の相違を超えてコミュニティづくりの楽しさを知る。
 - ・社会の様々なトラブルに目を向ける。

● 編集協力者一覧

所	属	職 名	名	前
東大阪市教育委員会学校教育推進室		次 長	岩井	里史
能勢町教育委員会学校教育課		指導主事	遠藤	克俊
寝屋川市教育委員会教育指導課		指導主事	竹内	和雄
大東市教育委員会教育政策室		指導主事	澤辺	正人
東大阪市教育委員会学校教育推進室		指導主事	山口	勝也
松原市教育委員会教育推進課		指導主事	稲垣	久代

● 事務局

大阪府教育委員会市町村教育室児童生徒支援課子ども支援グループ

TEL 06-6941-0351 (内線 5483) FAX 06-6944-3820

大阪府は「こころの再生」府民運動を推進しています。

“愛”言葉は「ほめる、笑う、しかる」

教育委員会事務局市町村教育室児童生徒支援課

電話 06(6941)0351 平成20年7月発行



大阪「こころの再生」府民運動
～大阪あったかプロジェクト～